

ジェンダー研究センター彙報<平成25年度>

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

職名は発令時による

平成25 (2013) 年度研究プロジェクト概要

年月日	テーマ	報告者、評者等
	ジェンダー研究センター提供科目「国際社会ジェンダー論」連続講座	
平成25年4月24日	第1回「国際社会のジェンダー平等戦略：ユネスコの経験を中心に国連組織のジェンダー主流化政策とジェンダー平等の活動を論じる」	【講師】菅野琴(IGS客員研究員、元ユネスコ本部職員)
平成25年5月8日	第2回「国連大学敷地内にあるILO、ユニセフ東京事務所、国連大学への訪問」	【講師】菅野琴(IGS客員研究員、元ユネスコ本部職員)
平成25年5月15日	第3回「教育、貧困とジェンダー——グローバル化と内発型ジェンダー平等論」	【講師】菅野琴(IGS客員研究員、元ユネスコ本部職員)
平成25年5月22日	第4回「教育におけるジェンダー平等——質的経験の量的測定の課題と挑戦」	【講師】菅野琴(IGS客員研究員、元ユネスコ本部職員)
平成25年5月29日	公開シンポジウム「サステナビリティとジェンダー——科学と人類の未来を担う新たなパートナーシップを求めて」	【報告】菅野琴(IGS客員研究員、元ユネスコ本部職員)、二村まどか(国連大学専門職員)、佐崎淳子(国連人口基金UNFPA 東京事務所長)、高雄綾子(フェリス学院大学専任講師) 【コーディネーター・司会】菅野琴(IGS客員研究員、元ユネスコ本部職員)、館かおる(IGS教授)
国際シンポジウム	平成26年1月25日 「変動期の東アジアにおけるジェンダー主流化——現状と新たな挑戦」 【主催】IGS	【報告】黄長玲(国立台湾大学・副教授)、金京姫(韓国中央大学校・教授)、ルオン・トゥ・セエン(ベトナム ホーチミン国家政治行政学院/WiPPA・センター長)、三浦まり(上智大学・教授) 【コメント】足立真理子(本学大学院教授・IGSセンター長)、伊田久美子(大阪府立大学・教授) 【司会】申琪榮(IGS准教授)
公開シンポジウム	平成25年7月20日・21日 日仏女性研究会30周年記念シンポジウム「ジェンダー平等へ向けて——日仏比較の方法と政策研究」 第1日目「日仏比較の方法をさぐる——国家・家族・個人の概念から」 第2日目「ジェンダー平等政策——EU・フランス」 【主催】日仏女性研究会 【共催】公益財団法人日仏会館、日仏会館フランス事務所 【後援】アンスティチュ・フランセ日本/在日フランス大使館、IGS	【報告】中嶋公子(日仏女性研究会)、柳沢直子(日仏女性研究会)、吉川佳英子(京都造形芸術大学)、井上たか子(獨協大学)、石田久仁子(日仏女性研究会)、神尾真知子(日本大学)、船橋恵子(静岡大学)、藤森宮子(京都女子大学)、木村信子(明治大学)、館かおる(IGS教授) 【コメント】クリスティーン・レヴィ(UIMFRE19 CNRS-MAEE)、館かおる(IGS教授)、服藤早苗(埼玉学園大学) 【司会】佐藤浩子(川村学園女子大学)、中嶋公子(日仏女性研究会)、柳沢直子(日仏女性研究会)
講演会	平成25年11月23日 「何春葵『性/別』攪乱——台湾における性政治』出版記念講演会」 【主催】IGS	【講演】何春葵(国立中央大学・教授) 【コメント】水島希(東京大学・特任助教)、三橋順子(明治大学)ほか・非常勤講師 【通訳】大橋史恵(早稲田大学・助教)、張瑋容(本学大学院博士後期課程) 【司会】館かおる(IGS教授)
	平成26年3月25日 館かおる先生最終講義 「日本における女性学・ジェンダー研究の確立を目指して」 【主催】IGS	【講演】館かおる(IGS教授) 【挨拶】足立真理子(IGSセンター長) 【司会】申琪榮(IGS准教授)
研究会	平成25年9月27日 2013年度第1回IGS研究報告会 【主催】IGS	【報告】板井広明(IGS研究推進支援員) 【司会】足立真理子(IGSセンター長)
	平成26年3月26日 Globalisation, Gender, Space & Place 「グローバリゼーション、ジェンダー、空間、場所」 【共催】本学グローバル文化学環、大学院ジェンダー学際研究専攻、IGS	【講演】Doreen Massey(オープンユニヴァーシティ名誉教授) 【討論】松川誠一(東京学芸大学准教授)、太田麻希子(本学大学院研究院研究員)
学会	平成25年6月22日 日本ドイツ学会第29回シンポジウム「領土とナショナルイデオロギ」 【主催】日本ドイツ学会 【後援】IGS、本学グローバル人材育成センター推進事業	【報告】藤原辰史(京都大学)、北川圭子(北海道工業大学)、伊藤めぐみ(早稲田大学)、青木聡子(名古屋大学)、佐藤成基(法政大学)、吉岡潤(津田塾大学)、藤田恭子(東北大学)、広渡清吾(専修大学)、ラインハルト・ツェルナー(ボン大学) 【コメント】川喜田敦子(中央大学) 【司会】村山聡(香川大学)、姫岡とし子(東京大学)、足立信彦(東京大学)
企画協力	平成25年11月5日～12月20日 資料展「イスラム世界の女性たち」 【主催】日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所図書館 【共催】お茶の水女子大学附属図書館	【企画協力】館かおる(IGS教授)、平野恵子(IGS研究機関研究員)、吉原公美(IGSアカデミック・アシスタント)

(同上)

1. 人事関係

1) 運営委員会名簿 (括弧内は在任期間)

ジェンダー研究センター長・人間文化創成科学研究科教授	足立 眞理子	(平成 19 年 4 月 1 日～)
ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科教授	館 かおる	(平成 8 年 5 月 11 日～平成 26 年 3 月 31 日)
ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科准教授	申 琪榮	(平成 20 年 4 月 1 日～)
ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科教授	石井クンツ昌子	(平成 20 年 4 月 1 日～)
ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科教授	棚橋 訓	(平成 20 年 4 月 1 日～)
人間文化創成科学研究科教授	米田 俊彦	(平成 16 年 4 月 1 日～)
人間文化創成科学研究科教授	真島 秀行	(平成 16 年 4 月 1 日～)
人間文化創成科学研究科教授	宮尾 正樹	(平成 19 年 4 月 1 日～)
人間文化創成科学研究科教授	小玉 亮子	(平成 23 年 4 月 1 日～)
人間文化創成科学研究科准教授	斉藤 悦子	(平成 24 年 4 月 1 日～)

根村 直美	(日本大学経済学部教授)	(同上)
ジソ・ユン	(カンザス大学政治学部専任講師)	(平成 25 年 4 月 1 日～7 月 31 日)
徐 阿貴	(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)	
横山 美和	(平成 25 年 10 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)	
研究機関研究員	平野 恵子	(平成 25 年 4 月 1 日～)
研究支援推進員	板井 広明	(平成 22 年 12 月 1 日～)
事務局員	花岡 ナホミ	(平成 18 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
アカデミック・アシスタント	吉原 公美	(平成 22 年 5 月 1 日～)
アカデミック・アシスタント	城石 梨奈	(平成 22 年 7 月 1 日～平成 25 年 8 月 31 日)
研究員	滝 美香	(平成 23 年 5 月 1 日～)

2) スタッフ名簿 (括弧内は在任期間)

センター長 (併)	足立 眞理子	(平成 19 年 4 月 1 日～)
センター教員	館 かおる	(平成 12 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
	申 琪榮	(平成 20 年 4 月 1 日～)
客員教授 (国内)	戒能 民江 (お茶の水女子大学名誉教授)	(平成 23 年 4 月 1 日～)
客員研究員	神尾 真知子 (日本大学法学部教授)	(平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
	菅野 琴 (元駐ネパールユネスコ代表・元ユネスコ本部職員・国立女性教育会館客員研究員)	(平成 20 年 4 月 1 日～)
	伊藤 るり (一橋大学大学院教授)	(同上)
	小川 眞里子 (三重大学人文学部教授)	(同上)
研究協力員	大海 篤子	(東京都市大学非常勤講師)
		(平成 20 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)
	高橋 さきの	(お茶の水女子大学東京農工大学非常勤講師)

2. 会議関係

<運営委員会の開催>

平成 25 年 7 月 5 日/9 月 13 日、平成 26 年 2 月 3 日/3 月 11 日

3. 研究調査活動

1) センター研究プロジェクト

「グローバル金融危機以降におけるアジアの新興/成熟経済社会とジェンダー」

<科学研究費基盤研究 A>

【研究担当】

足立真理子 (IGS センター長)

館かおる (IGS 教授)

申琪榮 (IGS 准教授)

斎藤悦子 (お茶の水女子大学准教授)

姉齒暁 (駒澤大学教授)

山田和代 (滋賀大学准教授)

金井郁 (埼玉大学准教授)

堀芳枝 (恵泉女学園大学准教授)

長田華子 (日本学術振興会特別研究員 PD)

滝美香 (IGS 研究員 (科学研究費))

【研究内容】

I. 本年度は、高齢化対応産業として選択した車椅子製造企業の実態調査をおこなった。これまでの過程で、高齢化対応政策における制度設計上の差異 (制度の競争)、2 高齢化対応産業における労働供給の差異、3 ケア労働過程におけるアクターの位置づけ (制度を含む) の相違などに関して精緻化した。また労働過程論の最新知見である三極構造論の理論化作業に入った。2 縫製・衣料産業は、昨年度に続いて、海外移転をしなかった国内残存企業を、東北地方を中心 (岩手、福島、山形) に調査を実施し、関連インタビューを行なった。2 再生産領域問題群：日本および韓国の生命保険会社の比較研究としての実態調査をまとめ国際学会での成果報告を行った。また、韓国、ベトナムでの調査に加え日本でのインタビューを本格化させた。3 金融・情報問題群：米国での調査を踏まえて、従来の金融・信用理論では焦点のあてられていないジェンダーと信用の理論的精査、および海外の最新研究動向に関する現状のまとめと理論化作業を行なった。

II. ジェンダー関連統計の収集

ジェンダー関連統計の収集に関して、項目別の精査を加え、また、方法上の差異に関する検討を行なった。

「韓国のジェンダー主流化の取り組みにおけるナショナル・マシナリーの研究」

<科学研究費補助金基盤研究 C>

【研究担当】

申琪榮 (IGS 准教授)

【研究内容】

本年度は研究最終年度として、これまでの成果を論文にまとめ発表した。成果論文は次のとおりである。①「ジェンダー政策の形成過程——理論的考察と韓国の事例」『国際ジェンダー学会誌』11号、35-57頁2013年、②“Wome’s Sustainable Representation and the Spillover Effect of Electoral Gender Quotas in South Korea,” *International Political Science Review*, Vol.35, No.1 pp. 80-92, 2014 ③「クオータ制を導入した韓国から——政治が変わらない限り、社会は変わらない」WINWIN 編著『クオータ制をめざす』パドウィメンズオフィス、31-35頁、2013年 ④「韓国：女性候補者クオータ制度の成立過程と成果」三浦まり、衛藤幹子共編『ジェンダー・クオータ——世界の女性議員はなぜ増えたのか』明石書店、145-173頁、2014年。

「韓国の多文化主義と結婚移住女性の文化的権利——政策・運動・主体」

【研究担当】

徐阿貴 (IGS 研究協力員)

【研究内容】

この研究は、韓国における多文化主義の議論に関し、政策と運動の相互作用的なダイナミズムをフェミニスト政治社会学に依拠して分析することを目的とする。その意図は、グローバル化や低出産に直面する東アジアの文脈から、ネイションの再編成を人種/エスニシティ、ジェンダー、階級構造から明らかにし、「多文化」言説が果たしている役割を析出することである。韓国では登録外国人約120万人 (2009年) のうち結婚移民者は1割強にすぎないにもかかわらず、結婚移住女性は韓国の「多文化」関連政策に重大なインパクトを与えてきた。このため本研究では、韓国の「多文化」をめぐるさまざまな主体のうち、結婚移住女性に焦点をあてるものである。本年度は、韓国梨花女子大学に拠点を置きつつ、地域の多文化家族センター、市民団体、そして移住女性による自助組織に関し現地調査を行った。成果の一部を日本社会学会大会 (2013年10月、於・慶応大学) で発表し、また『アジア太平洋研究センター年報』第11号に、「移住女性による主体的な〈多文化〉の表象——ソウル国際女性映画祭の試み」と題する論文を発表した。

「食の倫理と功利主義——食をめぐる規範・実践・ジェンダー」

【研究担当】

板井広明 (IGS 研究支援推進員)

【研究内容】

本年度は現代の食の倫理の検討に重点を置き、映画『King Corn』のベースともなった『雑食動物のジレンマ』で知られる M. Pollan の食の倫理を、Pollan, M. (2008) *In Defense of Food: An Eater's Manifesto*.お

よび (2009) Food Rules: An Eater's Manual.などを素材に、P. Singer の功利主義的な食の倫理論と比較させながら、より詳細に検討した。功利主義的な食の倫理では見落とされがちな、食を通じた他者との協働の重要性や、当該社会の一般的観念とあるべき食の倫理との調整という問題をより深く考察することへと繋がった。

また夏期に、ニューヨーク、シカゴなどへ現地調査へ行き、フードスタンプ事務所やオルタナティブな運動について、とりわけ「食の砂漠」(生鮮食品へのアクセスが或る一地域において限定されているか、まったくないこと)の現況を見聞した。とりわけシカゴではヴェジタリアンに造詣の深いシカゴ大の H. Long 准教授と意見交換を行ない、日本のヴェジタリアンとしても有名な宮沢賢治の思想について教示してもらった。年度後半には、平成 26 年 8 月 20-22 日に横浜国大で開催される国際功利主義学会第 13 回大会 (International Society for Utilitarian Studies) での報告原稿作成に取り組んだ。

「アジアにおけるトランスナショナル公共圏の研究」

<科学研究費基盤研究 C>、<日韓文化交流基金フェローシップ>

【研究担当】

徐阿貴 (IGS 研究協力員)

申琪榮 (IGS 准教授)

【研究内容】

本研究は、アジアにおけるトランスナショナルな公共圏の位相を実証的に検討することを目的とし、とくに日本と韓国の移住女性の社会活動に焦点をあてて検討を行った。本年度の成果としては、国際会議 Sex, Gender, Society: Rethinking Japanese Modern Feminism (Emory University (2013 年 4 月、於・Emory University) での報告において、在日朝鮮人女性による社会運動を、トランスナショナルなフェミニズムやディアスポラ・フェミニズムの視角から検討しつつ、アジアにおけるポストコロニアルな状況の中で在日朝鮮人女性があらたな公共圏の創出に果たしている役割を浮き彫りにした。また韓国における移住女性の社会活動に関しフィールド調査を実施し、現在調査データを分析中である。

在日朝鮮人と在韓結婚移住女性とは、出身国、移住の背景、ホスト社会での法的および社会的地位などの点で大きく異なる。このことを鑑みつつ、それぞれの社会での多文化的状況における役割に注目し、トランスナショナルな公共圏論への示唆を得ることが今後の課題である。

「女性の政治参加で政策形成は変わったか——日米比較ジェンダー政治学の試み」

<科学研究費基盤研究 C>

【研究担当】

大海篤子 (IGS 研究協力員)

申琪榮 (IGS 准教授)

【研究内容】

富山県高岡市でインタビュー調査を行った (2 月 16 日、17 日)。また、研究会を 2 回開催し、資料整理とインタビュー調査報告をおこなった。9 月～10 月には、アメリカでのインタビュー調査のための準備を開始した。

このほか、神奈川女性センターの「江の島塾」にて講座講師を 2 回務め、世田谷区男女共同参画推進センターらぶらすにおいても講座の講師として成果を披露した。ほかにも、立教大学法学部「日本政治」クラスにて講義をおこなった

「サステナビリティとジェンダー——科学と人類の未来を担う新たなパートナーシップを求めて」

【研究担当】

菅野琴 (IGS 客員研究員・元ユネスコ本部職員・国立女性教育会館客員研究員)

館かおる (IGS 教授)

【研究内容】

本研究では、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを含めたジェンダーの視座から「性と生殖」と持続可能性の問題を探究した。本年度の公開シンポジウムは 2013 年 5 月 29 日(水)17:30~20:00 に、お茶の水女子大学本館 103 で開催した。館かおる (本学大学院/IGS 教員) による「サステナビリティとジェンダー：科学と人類の未来を担う新たなパートナーシップを求めて」と題した趣旨説明を皮切りに、以下の報告が行われた。菅野琴 (本学 IGS 客員研究員) 「持続可能な開発のための教育 (ESD)世界会議の動向とジェンダー視座からの視点」、二村まどか (国連大学専門職員) 「国連大学のサステナビリティ関連事業の展開とジェンダー視点」、佐崎淳子 (国連人口基金 UNFPA 東京事務所長) 「人口問題とリプロダクティブ・ヘルス」、高雄綾子 (フェリス女学院大学専任講師) 「ドイツにおける反原発運動と ESD」。さらに、生態系の連鎖や科学のあり方及び両性の公平なパートナーシップ等について、ジェンダー視点で論じることを目的とした本シンポジウムでの討議は、2014 年に開催される「持続可能な開発のための教育 (ESD)世界会議」の「ジェンダーと ESD 会議/イベント」の実質的インプットを構成する成果をもたらした。

「科学技術とジェンダー」に関わる研究の諸局面の検討」

【研究担当】

小川眞里子 (IGS 客員研究員、三重大学特任教授)

舘かおる (IGS 教授)

根村直美 (IGS 研究協力員、日本大学教授)

横山美和 (本学大学院博士後期課程院生)

【研究内容】

本年度小川は、高等教育や研究者のジェンダー問題に関する統計調査の東アジア版を目指して「東アジアにおける女性研究者のジェンダー分析および比較研究」(科学研究費補助金基盤研究 (C)研究代表者小川眞里子)に突起し、韓国・台湾・日本の共同研究によるワークショップを開催した。また、東アジア科学技術社会論学会の日本開催に際し、インドの科学技術開発政策研究所のニールム・クマール氏を招聘し、成長著しいインドにおける女性研究者の活躍についての研究会を実施した。一方、舘は国連大学主催のフクシマの現地視察や国際シンポジウムに参加し、ドイツやウクライナなどの国外からの原子力問題対応に関する科学技術知の把握に務めた。根村は「自己決定、ジェンダー」という概念を、医学や生命科学等と関連させて再構築を試み『現代倫理学の挑戦—自己決定とジェンダー』(2013年度科研費補助金研究成果刊行公開促進費助成)を刊行した。横山は、これまでの研究を『女性医師 M.P.ジャコービーの月経成因論の一考察—19世紀後半米国における科学知のジェンダー・バイアスをめぐって—』と題する博士論文にまとめた。また舘は、本年度成立された、湯浅年子賞受賞式の際に、急逝した山崎美和恵氏による「湯浅年子研究」の意義について、「女性科学者研究」の視座から報告を行った。

「政治制度と政府の政策アジェンダ——日本と韓国の比較研究」

【研究担当】

尹智焯 (カンザス大学専任講師)

申琪榮 (IGS 准教授)

【研究内容】

本研究はジェンダークオータが女性の政治代表性にどのような影響を与えるかを韓国のケースを通して考察した。韓国では、女性の政治参加拡大のため、2000年代初頭にクオータ制度が混合選挙制—比例と選挙区レベル両方で導入された。それ以来、国会議員選挙及び地方選挙で女性議員数が増加しつつある。具体的にはジェンダークオータによると、各政党は比例代表候補者の五割以上、そして、選挙区候補者の三割以上は女性を公認すべきとなっている。しかし、国会と地方レベルでクオータの細部条項と強制力の違いがある。本研究は韓国における国会議員選挙と地方選挙データを比較し、クオータ導入の成果が国会と地方でどのように違うかを分析した。

「原発をめぐる諸研究の多角的ジェンダー分析」

【研究担当】

舘かおる (IGS 教授)

高橋さきの (IGS 研究協力員、本学非常勤講師)

稲葉奈々子 (茨城大学准教授)

小玉亮子 (本学教授)

菅野琴 (IGS 客員研究員)

船橋晴俊 (法政大学教授)

吉田由布子 (「チェルノブイリ被害調査・救援」女性ネットワーク事務局長)

【研究内容】

本研究プロジェクトは、これまで提示された原発をめぐる諸研究の文献収集とそれぞれの活動の紹介を行った。研究会参加メンバー及び連携研究者から有用な文献が紹介され、多角的なジェンダー分析を行う際の基礎づくりができた。また、本研究プロジェクトメンバーが関わる、国連大学や日本学術会議、多様な研究グループにおける活動を通じて、国内外の研究者との交流や今後の研究及び政策化への考察を深めた。

「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」

【研究担当】

戒能民江 (本学名誉教授、IGS 客員研究員)

神尾真知子 (日本大学教授、IGS 客員研究員)

申琪榮 (IGS 准教授)

【研究内容】

本研究は、ジェンダーおよび格差に敏感な視点から、キャリア形成と家庭・地域・社会活動が可能な働き方の設計をめざして学際的な研究を実施し、政策提言を行うことを目的としている。今年度は事業における最終成果をとりまとめ、報告書を作成した。

4. 研究交流・社会連携部門

平成24年4月から平成25年3月の間の活動は次の通りである。

(1) 研究交流会

平成25年9月27日に第1回IGS研究報告会を開催。板井広明 (IGS 研究推進支援員) が、「食の倫理 (Food Ethics) とジェンダー」と題し、報告をおこなった。板井氏の専門は社会経済思想史であり、本報告は近年取り組まれている「食の倫理」についてジェンダーの観点から論点整理をおこなうものであった。先行研究の整理に加え、8月～9月にかけて実施したアメリカ調査を踏まえて功利主義的な食

の倫理という課題に取り組んだ本報告は、参加者の活発な議論を喚起した。そのため時間を大幅に延長して質疑応答が展開された。

(2) IGS セミナー、シンポジウム、講演会、ワークショップ

① 平成25年4月24日、5月8日、5月15日〈IGS セミナー〉

ジェンダー社会科学専攻「国際ジェンダー論」連続講座(全5回)、ジェンダー研究センター提供科目、講師：菅野琴(IGS 客員研究員、元ユネスコ本部職員)。

② 5月29日〈公開シンポジウム〉

「サステイナビリティとジェンダー——科学と人類の未来を担う新たなパートナーシップを求めて」ジェンダー研究センター提供科目、ジェンダー社会科学専攻「国際ジェンダー論」履修科目。館かおる(IGS 教授)「「趣旨説明 サステイナビリティとジェンダー——科学と人類の未来を担う新たなパートナーシップを求めて」、菅野琴(IGS 客員研究員、元ユネスコ本部職員)「持続可能な開発のための教育(ESD)世界会議の動向とジェンダー視点からの視点」、二村まどか(国連大学専門職員)「国連大学のサステイナビリティ関連事業の展開とジェンダー視点」、佐崎淳子(国連人口基金 UNFPA 東京事務所長)「人口問題とリプロダクティブ・ヘルス」、高雄綾子(フェリス女学院大学専任講師)「ドイツにおける反原発運動とESD」。コーディネーター・司会：菅野琴(IGS 客員研究員、元ユネスコ本部職員)、館かおる(IGS 教授)。

③ 6月22日〈学会〉

日本ドイツ学会第29回シンポジウム「領土とナショナリティ」藤原辰史(京都大学)、北川圭子(北海道工業大学)、伊藤めぐみ(早稲田大学)、青木聡子(名古屋大学)、佐藤成基(法政大学)、吉岡潤(津田塾大学)、藤田恭子(東北大学)、広渡清吾(専修大学)、ラインハルト・ツェルナー(ボン大学)が報告し、川喜田敦子(中央大学)がコメントした。司会は、村山聡(香川大学)、姫岡とし子(東京大学)、足立信彦(東京大学)。

④ 7月20日〈公開シンポジウム〉

「日仏女性研究学会30周年記念シンポジウム「ジェンダー平等へ向けて——日仏比較の方法と政策研究」第1日目「日仏比較の方法をさぐる——国家・家族・個人の概念から」、第2日目「ジェンダー平等政策——EU・フランス」。報告は、中嶋公子(日仏女性研究学会)、柳沢直子(日仏女性研究学会)、吉川佳英子(京都造形芸術大学)、井上たか子(獨協大学)、石田久仁子(日仏女性研究学会)、神尾真知子(日本大学)、船橋恵子(静岡大学)、藤森宮子(京都女子大学)、木村信子(明治大学)、館かおる(IGS 教授)。ディスカッサントにクリスティヌ・レヴィ(UMIFRE19 CNRS-MAEE)、館かおる(IGS 教授)、服藤早苗(埼玉学園大学)を迎えた。また司

会は佐藤浩子(川村学園女子大学)、中嶋公子(日仏女性研究学会)、柳沢直子(日仏女性研究学会)がおこなった。

⑤ 11月23日〈講演会〉

「何春燧『性／別』攪乱——台湾における性政治』出版記念講演会」執筆者の何春燧(国立中央大学・教授)を迎えて、出版記念講演会をおこなった。コメンテーターには、夜間セミナー当時にもコメンテーターを務めた水島希(東京大学・特任助教)、三橋順子(明治大学ほか・非常勤講師)が登場した。また、本書の翻訳もおこなった大橋史恵(早稲田大学・助教)、張璋容(本学大学院博士後期課程)が通訳として、司会は館かおる(IGS 教授)を務めた。

⑥ 11月5日～12月20日〈企画協力〉

日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所図書館が主催し、本学附属図書館が共催した、「資料展 イスラム世界の女性たち」が上記の日程で開催された。IGS からは、館かおる(IGS 教授)、平野恵子(IGS 研究機関研究員)、そして吉原公美(IGS アカデミック・アシスタント)が企画に協力した。また、平野恵子(IGS 研究協力員)によるイスラム圏の推薦図書講評も期間中の資料として配布された。

⑦ 平成26年1月25日〈国際シンポジウム〉

「変動期の東アジアにおけるジェンダー主流化——現状と新たな挑戦」と題した国際シンポジウムを国立現代美術館にて開催した。黄長玲(国立臺灣大學)「不安定な連携——台湾の保守政権とジェンダー主流化」、金京姫(韓国中央大学校)「ジェンダー主流化再考——韓国を例として」、ルオン・トゥ・ヒエン(ベトナムホーチミン国家政治行政学院)「ベトナムにおけるジェンダー政策——その実績と課題」、三浦まり(上智大学)「新自由主義と母親——2000年以降の日本の労働・家族政策」が報告をおこなった。ディスカッサントには、足立真理子(IGS センター長)ならびに伊田久美子(大阪府立大学教授/女性学センター長)を迎えた。司会は、申琪榮(IGS 准教授)を務めた。本シンポジウムは、本号に特集として掲載されている。

⑧ 3月25日〈特別講義〉

IGS 教授としてながくその任にあった、館かおる教授の最終講義が本学にて開催された。「日本における女性学・ジェンダー研究の確立を目指して」と題された講義は、館教授の研究人生そのものをあらわすような多彩な領域に及ぶものであった。挨拶に足立真理子(IGS センター長)が立ち、司会は申琪榮(IGS 准教授)を務めた。その後の懇親会も、館教授の人脈の広さを物語る国内外を代表するジェンダー研究者が集う場となった。

⑨ 3月26日〈研究会〉

講師にDoreen Massey(オープンユニヴァーシティ名誉教授)を迎え

Globalisation, Gender, Space & Place 「グローバリゼーション、ジェンダー、空間、場所」と題する研究会がおこなわれた。討論者として松川誠一（東京学芸大学准教授）、太田麻希子（本学大学院研究院研究員）が各自の専門領域からコメントした。

(3) 関連研究会

①「フェミニスト経済学」研究会

＜コーディネーター＞足立眞理子（IGS センター長）、伊田久美子（大阪府立大学教授）

②「映像表現とジェンダー」研究会

＜コーディネーター＞館かおる（IGS 教授）、小林富久子（早稲田大学教授）

＜事務局＞磯山久美子（立教大学ほか非常勤講師）、臺丸谷美幸（本学博士後期課程）ほか

③日米女性政治学研究者ネットワーク（JAWS）

＜コーディネーター＞申琪榮（IGS 准教授）

＜事務局＞大海篤子（IGS 研究協力員・東京都立大学非常勤講師）、大木直子（本学リサーチフェロー）

④「国際移動とジェンダー（IMAGE）」研究会

＜コーディネーター＞伊藤るり（IGS 客員研究員・一橋大学教授）

＜メンバー＞足立眞理子（IGS センター長）、小ヶ谷千穂（横浜国立大学准教授）、定松文（恵泉女学園大学教授）、稲葉奈々子（茨城大学准教授）、大橋史恵（早稲田大学助教）、呉泰成（一橋大学博士後期課程）越智方美（独立行政法人・国立女性教育会館）、平野恵子（IGS 研究機関研究員）

(4) 国際連携プロジェクト（AIT）

＜アジア工科大学院大学（AIT）との連携事業＞

本年度も AIT 院生の日本国内研修については「英語サマープログラム」を活用するとともに、同時期に修士課程生と博士課程生各一名を受け入れ、首都圏のジェンダー関連機関への訪問見学等を実施。最終日にはサマープログラムに参加した AIT 院生も加えて研究報告・交流会を実施した。また、ワークショップ履修生によるタイ研修後の報告会はこれまでゼミ形式でおこなってきたが、履修生の発案により徽音祭の場において公開で実施した。

【担当】足立眞理子（IGS センター長）、館かおる（IGS 教授）、申琪榮（IGS 准教授）、雑賀葉子（本学博士後期課程）、鈴木亜矢子（本学博士後期課程）、吉原公美（IGS アカデミック・アシスタント）

5. 教育・研修部門

①研究員

＜学部＞

平野恵子

リベラル・アーツ ジェンダー23 開発・社会変動とジェンダー（演習）（前期）

徐阿貴

美しさのグローバリゼーション—現代アート、建築、文学におけるクロスカルチャー的発展（前期集中）

高橋さきの

リベラル・アーツ ジェンダー7 テクノサイエンスとジェンダー（後期）

②学部出講・大学院担当

＜人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー社会科学専攻＞

足立 眞理子

ジェンダー政治経済学（通年）

ジェンダー政治経済学演習（通年）

ジェンダー学際研究論文指導（通年）

ジェンダー学際研究報告 基礎・発展（通年）

館かおる

ジェンダー史論（前期）

ジェンダー史論演習（後期）

ジェンダー学際研究論文指導（通年）

ジェンダー学際研究報告 基礎・発展（通年）

申琪榮

比較政治論（前期）

比較政治論演習（後期）

ジェンダー学際研究論文指導（通年）

＜人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻＞

足立 眞理子

ジェンダー社会経済学（前期）

ジェンダー社会経済学演習（後期）

開発・ジェンダー論特論（前期・オムニバス）

国際社会ジェンダー論演習（前期 日下部京子・AIT 准教授と共同）

ジェンダー社会科学論（通年 開発ジェンダー論コース全教員）

館かおる

ジェンダー基礎論（前期・オムニバス）

ジェンダー基礎論演習 (後期)

開発・ジェンダー論特論 (前期・オムニバス)

国際社会ジェンダー論 (前期集中・菅野琴・IGS 客員研究員と共同)

国際社会ジェンダー論演習 (前期 日下部京子・AIT 准教授と共同)

ジェンダー社会科学論 (通年 開発ジェンダー論コース全教員)

申琪榮

フェミニズム理論の争点・同演習 (前期)

ジェンダー立法過程論 (後期)

開発・ジェンダー論特論 (前期・オムニバス)

国際社会ジェンダー論演習 (前期 日下部京子・AIT 准教授と共同)

ジェンダー社会科学論 (通年 開発ジェンダー論コース全教員)

<学部>

足立 真理子

文教育学部 グローバル化と経済 (後期)

館かおる

リベラル・アーツ ジェンダー24 テクノロジーとジェンダー (演習) (前期)

生活科学部 ジェンダー論 (前期)

申琪榮

リベラル・アーツ ジェンダー8 政治とジェンダー (後期)

6. 社会貢献

ジェンダー研究センター

・諸外国/国内の女性関係行政部門、民間団体 (NGO の女性問題担当者等)、研究者等の視察受け入れ、日本の男女共同参画等の現状について解説など

足立真理子

(委員)

大阪府立大学女性学研究センター学外研究員

(講演等)

・国際シンポジウム「変動期の東アジアにおけるジェンダー主流化——現状と新たな挑戦」(2014年1月25日)

・経済理論学会「『経済学分野の参照基準』を考えるシンポジウム」(2014年3月12日)

(その他)

・ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスとの交流

・ケンブリッジ大学との交流

・北京大学中外女性研究センターとの交流

館かおる

(委員)

・ジェンダー史学会常任理事

・国連大学ハイレベル諮問委員会委員

・湯浅年子奨学金審査員

・リーブラ (港区男女平等センター) 助成事業選考委員

(講演等)

・バリ第7大学教員交流会講演「日本における女性史・ジェンダー史——今日のアプローチと主題系」(2013年4月4日)

・清水澄子さんを偲ぶ会講演「清水澄子さんの生涯と活動」(2013年4月7日)

・生活科学研究会講演「お茶の水女子大学におけるジェンダー研究・教育の展開」(2013年5月25日)

・日仏女性学研究会主催「ジェンダー平等の比較方法論の試みと政策研究」報告「国家の構成原理とエスニシティ」、「ジェンダー平等政策——EU、フランスと日本」(2013年7月20-21日)

・最終講義「日本における女性学・ジェンダー研究の確立を目指して」(2014年3月25日)

申琪榮

(委員)

・日本フェミニスト経済学会幹事

(講演等)

・法政大学政治学科講演 (2013年6月25日)

・千代田区男女共同参画センター講演 (2013年7月5日)

・一橋大学ジェンダー研究センター講演 (2013年10月25日)

・女性・戦争・人権学会共通論題コメンテーター (2013年10月26日)

・クオータ制を推進する会 (Qの会) 講演 (2013年12月20日)

・岐阜市女性センターフェスティバル講師 (2014年1月26日)

・国際女性デー (院内集会) 「日本の国会に<202030>の実現を！」基調スピーチ (2014年3月7日)

(その他)

ソウル大学日本学研究所との交流

平野恵子

(委員)

・国際ジェンダー学会編集委員会

7. 文献・資料収集/情報提供/閲覧活動

1) 主要収集資料

湯浅年子博士の資料整理、『公開目録』掲載資料の閲覧体制の整備をすすめた。

【担当】 館かおる (IGS 教授)、山崎美和恵 (埼玉大学名誉教授)、城石梨奈 (IGS アカデミック・アシスタント)・横山美和 (IGS アカデミック・アシスタント)

2) 資料提供

- お茶の水女子大学広報チーム・富山弘氏へ、「湯浅年子賞」募集案内のため、湯浅年子写真を提供。
- お茶の水女子大学理学部教授・菅本品夫氏へ、「湯浅年子賞」募集ポスター掲載のため、湯浅年子スケッチを提供。
- お茶の水女子大学歴史資料館・鷹野景子氏へ、オープンキャンパスの歴史資料館展示のため、黒田チカ写真を提供。
- 毎日新聞科学環境部・元村有希子氏へ、毎日新聞 8 月 1 日付け朝刊掲載のため、黒田チカ写真を提供。
- 株式会社第一学習社・松浦淳氏へ、高等学校用地歴副教材『最新日本史図表』掲載のため、黒田チカ写真昭和 2 (1927) 年卒業記念アルバム教員紹介の写真を提供。
- 沖縄科学技術大学院大学 (短期インターン)・広島大学大学院理学研究科・引地奈津子氏へ Woman in Science (仮題) 沖縄科学技術大学院大学 (OIST) キャンパス トンネル・ギャラリーにてスライドショー上映のため、湯浅年子写真、黒田チカ写真を提供。
- お茶の水女子大学図書・情報チーム・志賀祐紀氏へ、平成 25 年 10 月 15 日より開催されるお茶の水女子大学歴史資料館企画展示「日本初の女子大学生誕生 100 年 黒田チカと牧田らく」のため、黒田チカ研究業績標本、黒田チカ写真、黒田チカケルチン C ちらし、保井コノ写真、日本化学会表彰式・化学遺産認定証贈呈式写真、化学遺産認定証を提供。
- 公益社団法人 香川県教育会・牟禮良典氏へ、平成 25 年 11 月 1 日発行の『さぬき・人・ここにあり』合冊本掲載のため、保井コノ写真を提供。
- 高エネルギー加速器研究機構・井上真理子氏へ、平成 25 年 11 月 30 日配布の「TYL スクール 理系女子キャンプ 2014」ポスター・リーフレット掲載のため、湯浅年子資料 パスポートの写真を提供。
- 九州大学・鐘ヶ江隆行氏、黒田チカ論文(Ku-1042)表紙と 1 頁目を閲覧。
- 『月刊文藝春秋』2014 年 2 月号「歌人以外百人一首」掲載のため、湯浅年子の 1978 年頃の写真を提供。
- 高エネルギー加速器研究機構へ、湯浅年子賞メダルに使用するため、湯浅年子の 1978 年頃の写真を提供。
- 桶川地域文化研究会・今井正文氏へ、桶川市男女共同参画フォーラム 2014 での講演「辻村博士の足跡」での使用のため、山西貞『香りへの道』を提供。
- お茶の水女子大学理学部教授・菅本品夫氏へ、「湯浅年子賞」授賞式ポスター掲載のため、湯浅年子スケッチを提供。
- 松村憲二氏へ、『保井コノ資料目録』を提供。
- 光文社『女性自身』4 月 15 日発売号掲載のため、保井コノ写真提供。
- その他、ジェンダー研究センター刊行物等

3) リファレンスサービス資料及び情報の提供・閲覧・貸出・常設展示

- コピーサービス: 常時附属図書館情報サービス・情報システム係で担当
- ホームページ (和文・英文) の更新実施
- 図書以外に関する情報提供

4) 図書・資料寄贈 (敬称略)

掲載は、日本語文献: 寄贈者名『書名』(著者名)、外国語文献: 寄贈者名 書名 (イタリック) (著者名) の順とした。

<日本語文献>

都留文科大学ジェンダー研究プログラム『ジェンダーが拓く共生社会』(都留文科大学ジェンダー研究プログラム七周年記念出版編集委員会編)、立教大学出版会『ジェンダー研究の現在: 性という多面体』(新田啓子編)、堀江優子『戦時下の女子学生たち: 東京女子大学に学んだ 60 人の体験』(堀江優子編著)、全国女性シェルターネットワーク『24 時間のホットラインと被災地の女性団体への人材提供、雇用創出、財政支援事業報告書』、市川誠一(研究代表者)『首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究: 研究成果報告・概要版』木村哲主任研究者、市川誠一(研究代表者)『「5 分間アンケート」結果報告書: 2007 年-2010 年 HIV 抗体検査受検者を対象と

した質問紙調査：エイズ予防のための戦略研究の効果評価と政策還元』研究代表者 市川誠一、市川誠一(研究代表者)『MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業』、市川誠一(研究代表者)『MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 平成23年度 総括・分担研究報告書』、岡佳子『慈受院文書目録』(岡佳子編集)、岡佳子『日本の宗教とジェンダーに関する国際総合研究：尼寺調査の成果を基礎として』(岡佳子編集)、岡佳子『中宮寺文書目録』(岡佳子編)、岡佳子『日本の宗教とジェンダーに関する国際総合研究：尼寺調査の成果を基礎として』(岡佳子)、岡佳子『靈鑑寺文書目録』(岡佳子編)、岡佳子『日本の宗教とジェンダーに関する国際総合研究：尼寺調査の成果を基礎として』(岡佳子編)、岡佳子『日本の宗教とジェンダーに関する国際総合研究：尼寺調査の成果を基礎として』(岡佳子)、岡佳子『日本の宗教とジェンダーの研究：近世社会における尼僧と尼寺の役割 / 岡佳子研究代表 科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書 平成21年度-平成24年度』(岡佳子)、藤原織絵、『日本の性暴力サバイバー支援の現状と課題：当事者の視点から(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻開発・ジェンダー論コース修士(人文科学)論文)』(藤原織絵)、東日本大震災女性支援ネットワーク『災害とジェンダー 基礎編 男女共同参画の視点で実践する災害対策 テキスト』(東日本大震災女性支援ネットワーク研修プロジェクト担当編)、アジア経済研究所図書館『南アジアの社会変容と女性』(押川文子編)、アジア経済研究所図書館『エジプト社会における女性：文献サーベイ』(泉沢久美子編)、大阪府立大学女性学研究センター『ジェンダー研究の現在：女性学研究センター日韓シンポジウム = 젠더연구의 현재 : 여성학연구센터 일한심포지엄』、大阪府立大学女性学研究センター『女性学連続講演会：より深く掘り下げるために』(大阪女子大女性学研究センター編)、久保田裕之『正義・ジェンダー・家族』(スーザン・M. オーキン著; 山根純佳, 内藤準, 久保田裕之訳)、成城大学グローバル研究センター『グローカリゼーションと越境』(上杉富之編)、戒能民江『危機をのりこえる女たち：DV法10年、支援の新天地へ』(戒能民江編著)、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 大正7年4月-8年3月』、ジェンダー研究センター『職員住所録 昭和29年12月1日現在』、ジェンダー研究センター『東京特設中等教員養成所一覽 昭和十五年度』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校入学案内』(永田與三郎編)、ジェンダー研究センター『職員住所録 昭和30年12月1日現在』、ジェンダー研究センター『入学案内：お

茶の水女子大学 昭和35年版』、ジェンダー研究センター『入学案内：お茶の水女子大学 昭和27年版』、ジェンダー研究センター『入学案内：お茶の水女子大学 昭和29年版』、ジェンダー研究センター『入学案内：お茶の水女子大学 昭和30年版』、ジェンダー研究センター『入学案内：お茶の水女子大学 昭和31年版』、ジェンダー研究センター『入学案内：お茶の水女子大学 昭和32年版』、ジェンダー研究センター『入学案内：お茶の水女子大学 昭和33年版』、ジェンダー研究センター『入学案内：お茶の水女子大学 昭和34年版』、ジェンダー研究センター『職員録』(お茶の水女子大学庶務課編集)、ジェンダー研究センター『学生便覧』(お茶の水女子大学編)、ジェンダー研究センター『授業の概要』(東京女子高等師範学校, 東京特設中等教員養成所編)、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校概覧』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校 第六臨時教員養成所概覧』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校附属小學校規程 大正15年4月』、ジェンダー研究センター『演習、作業及陳列品概要』、ジェンダー研究センター『生徒必携』(東京女子高等師範学校編)、ジェンダー研究センター『高等女学校教育法令要覧』(東京開成館編)、ジェンダー研究センター『学生便覧』(お茶の水女子大学編)、ジェンダー研究センター『学報 第1号-第51号(昭和24年-昭和30年); 人事異動(昭和31.2.1-32.4.1)』(お茶の水女子大学編)、ジェンダー研究センター『お茶の水女子大学学報』、ジェンダー研究センター『お茶の水女子大学学生運動小史』、ジェンダー研究センター『桜蔭会開校四十年分立廿五年記念號』、ジェンダー研究センター『お茶の水女子大学要覧』(お茶の水女子大学庶務課編集)、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校規則』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校記事 甲』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校記事 乙』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 自昭和2年度至昭和4年度』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 大正11年4月-大正12年3月』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 自大正13年至大正14年』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 自大正14年4月至大正15年3月』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 自大正15年4月至昭和2年3月』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 自昭和2年至昭和3年』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 昭和4-5年』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 昭和5-6年』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範

学校・第六臨時教員養成所一覽 昭和 6-7 年』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 昭和 7-8 年』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 昭和 8-9 年』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 昭和 9-10 年』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 自大正 10 年度至大正 12 年度』、ジェンダー研究センター『師範學科卒業生番號録：女子高等師範学校 第 1』、ジェンダー研究センター『「蝶々」の系譜考』（外山友子）、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校附屬高等女学校規程』（東京女子高等師範学校附屬高等女学校編）、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校創立七十五周年、お茶の水女子大学開學記念：昭和二十四年十一月五日・六日』（櫻蔭會編）、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 昭和 10-11 年』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 昭和 11-12 年』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 自昭和 12 年至昭和 13 年』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校・第六臨時教員養成所一覽 自昭和 16 年至昭和 17 年』、ジェンダー研究センター『お茶の水女子大学一覽』（お茶の水女子大学編 昭和 27 年度）、ジェンダー研究センター『女高師問題の真相と批判』（東京女子高等師範学校卒業生有志編）、ジェンダー研究センター『国立学校特別会計三十年のあゆみ』（国立学校特別会計研究会編著）、ジェンダー研究センター『教員生活七十年』（堀七蔵）、ジェンダー研究センター『創立二十周年記念誌』（宮田丈夫編）、ジェンダー研究センター『創立三十周年記念誌：お茶の水女子大学文教育学部附屬中学校』（創立三十周年記念行事委員会編）、ジェンダー研究センター『母校開校六十年記念』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校六十年史』（東京女子高等師範学校編）、ジェンダー研究センター『お茶の水女子大学百年史』（「お茶の水女子大学百年史」刊行委員会編）、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校 第六臨時教員養成所演習及作業解説』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校附屬小學校概覽 昭和 2 年 4 月改訂』、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校沿革概要：開校五十年記念』（東京女子高等師範学校編）、ジェンダー研究センター『東京女子高等師範学校第六臨時教員養成所一覽附録卒業生氏名』、ジェンダー研究センター『「性/別」攪乱：台湾における性政治』（何春蕤著；館かおる，平野恵子編；大橋史恵，張瑋容訳）、ジェンダー研究センター『京大變始末 中』、ジェンダー研究センター『梅颯日記 4(2)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 4(3)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 4(4)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 4(5)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 4(6)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 4(7)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 4(8)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 4(9)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 4(10)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『春水日記 1(1)』、ジェンダー研究センター『春水日記 1(2)』、ジェンダー研究センター『春水日記 1(3)』、ジェンダー研究センター『春水日記 1(4)』、ジェンダー研究センター『春水日記 1(5)』、ジェンダー研究センター『春水日記 1(6)』、ジェンダー研究センター『春水日記 1(7)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(1)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(2)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(3)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(4)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(5)』、ジェンダー研究センター『梅颯日記 5(1)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 5(2)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 5(3)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 5(4)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 5(5)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 5(6)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 5(7)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 5(8)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 5(9)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 6(1)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 6(2)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 6(3)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 6(4)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『梅颯日記 6(5)』（頼梅颯）、ジェンダー研究センター『飯岡義齋書簡』、ジェンダー研究センター『女筆断簡 1(1)』、ジェンダー研究センター『女筆断簡 1(2)』、ジェンダー研究センター『女筆断簡 1(3)』、ジェンダー研究センター『春水寛政十二年状』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(6)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(7)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(8)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(9)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(10)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(11)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(12)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(13)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(14)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(15)』、ジェンダー研究センター『春水日記 2(16)』、ジェンダー研究センター『春水日記 3(1)』、ジェンダー研究センター『春水日記 3(2)』、ジェンダー研究センター『春水日記 3(3)』、ジェンダー研究センター『春水日記 3(4)』、ジェンダー研究センター『春水日記 3(5)』、ジェンダー研究センター『春水日記 3(6)』、ジェンダー研究センター『春水日記 3(7)』、

ジェンダー研究センター『春水日記 3(8)』、ジェンダー研究センター『春水日記 3(9)』、ジェンダー研究センター『春水日記 3(10)』、ジェンダー研究センター『春水日記 3(11)』、ジェンダー研究センター『春水日記 3(12)』、ジェンダー研究センター『梅臈日記 1(1)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 1(2)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 1(3)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 1(4)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 1(5)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 1(6)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 1(7)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 1(8)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 1(9)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 1(10)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 2(1)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 2(2)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 2(3)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 2(4)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 2(5)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 2(6)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 2(7)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 2(8)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 2(9)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 2(10)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 3(1)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 3(2)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 3(3)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 3(4)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 3(5)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 3(6)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 3(7)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 3(8)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 3(9)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『梅臈日記 3(10)』(頼梅臈)、ジェンダー研究センター『女筆断簡 1』、頼惟勤『飯岡義齋書簡 1』、頼惟勤『春水日記 1』、頼惟勤『春水日記 2』、頼惟勤『春水日記 3』、頼惟勤『梅臈日記 1』、頼惟勤『梅臈日記 2』、頼惟勤『梅臈日記 3』、頼惟勤『梅臈日記 4』、頼惟勤『春水寛政十二年状 1』、頼惟勤『京大變始末：中 1』、頼惟勤『梅臈日記 5』、頼惟勤『梅臈日記 6』、学術出版会『現代倫理学の挑戦：相互尊重を実現するための自己決定とジェンダー』(根村直美著)、何春蕤『轉眼歴史：兩岸三地性運回顧』(何春蕤主編)、何春蕤『連結性：兩岸三地性/別新局』(何春蕤主編)、何春蕤『色情無價：認真看待色情』(甯應斌, 何春蕤編)、ジェンダー研究センター『核廢棄物と熟議民主主義：倫理的政策的分析の可能性』(ジュヌヴィエーヴ・フジ・ジョンソン)、何春蕤『民困愁

城：憂鬱症、情緒管理、現代性的黑暗面』(甯應斌, 何春蕤)、何春蕤『酷兒新聲』(酷兒新聲編委會主編)、CAW ネット・ジャパン『アジアの女性労働者の現状と課題：今をつなぐ、未来につなげる』、ジェンダー研究センター『韓国・京畿女子高校、梨花女子大、梨花女子高校学校史——戦前の女子中等教育の研究：高等女学校に関する調査資料：no. 8』(高等女学校研究会プロジェクトチーム編)、ジェンダー研究センター『韓国的女子中等教育関係——戦前の女子中等教育の研究：高等女学校に関する調査資料；no. 7, 9-10』(高等女学校研究会プロジェクトチーム編)、ジェンダー研究センター『韓国的女子中等教育関係——韓国 no. 4 戦前の女子中等教育の研究：高等女学校に関する調査資料；no. 7, 9-10』(高等女学校研究会プロジェクトチーム編)、ジェンダー研究センター『韓国的女子中等教育関係——韓国 no. 2 戦前の女子中等教育の研究：高等女学校に関する調査資料；no. 7, 9-10』(高等女学校研究会プロジェクトチーム編)、『高等女学校卒業生に対するアンケート調査資料 no. 6 戦前の女子中等教育の研究』(高等女学校研究会プロジェクトチーム編)、ジェンダー研究センター『高等女学校卒業生に対するアンケート調査資料 no. 5 戦前の女子中等教育の研究』(高等女学校研究会プロジェクトチーム編)、ジェンダー研究センター『高等女学校卒業生に対するアンケート調査資料 no. 2 戦前の女子中等教育の研究』(高等女学校研究会プロジェクトチーム編)、ジェンダー研究センター『高等女学校卒業生に対するアンケート調査資料 no. 4 戦前の女子中等教育の研究』(高等女学校研究会プロジェクトチーム編)、ジェンダー研究センター『高等女学校卒業生に対するアンケート調査中間報告 no. 3 戦前の女子中等教育の研究』(高等女学校研究会プロジェクトチーム編)、ジェンダー研究センター『高等女学校卒業生に対するアンケート調査中間報告 no. 1 戦前の女子中等教育の研究』(高等女学校研究会プロジェクトチーム編)、高岡尚子『摩擦する「母」と「女」の物語：フランス近代小説にみる「女」と「男らしさ」のセクシュアリティ』(高岡尚子)、ジェンダー研究センター『タイ：アンコールワット 新・個人旅行』、ジェンダー研究センター『東アジアにおける植民地的近代とモダンガール 研究代表者 館かおる [最終報告書] 科学研究費補助金(基盤研究(A)(1))研究成果報告書 平成 15-18 年度』、ジェンダー研究センター『産婦人科とのつきあい方：不思議・おもしろ・わたしのからだ 1 女のからだシリーズ 1』、ジェンダー研究センター『よく知ろう人工妊娠中絶：からだ編：医療としての人工妊娠中絶、こころ編：わたしを生きるために 女のからだシリーズ 3』(佐々木静子監修)、ジェンダー研究センター『お茶の水女子大学ジェンダー研究センター共同研究プロジェクト「新自由主義の展開と女性政策の変遷」報告書 (お茶の水女子大学ジェンダー研

究センター)』、ジェンダー研究センター『再生産領域のグローバル化とアジア：移住者、家族、国家、資本 伊藤るり研究代表 科学研究費補助金(基盤研究(1))研究成果中間報告書 2005(平成17)年度~2008(平成20)年度』、ジェンダー研究センター『大学教育とジェンダー：平成8年度特定研究報告書 お茶の水女子大学ジェンダー研究センター平成8年度特定研究プロジェクト編 3』、ジェンダー研究センター『大学教育とジェンダー：平成8年度特定研究報告書 お茶の水女子大学ジェンダー研究センター平成8年度特定研究プロジェクト編 2』、ジェンダー研究センター『「健康」と「ジェンダー」』(原ひろ子, 根村直美編)、ジェンダー研究センター『国際協力における大学の役割：ジェンダー課題を中心に』(お茶の水女子大学ジェンダー研究センター)

〈外国語文献〉

Korean Women's D *Estimation of wage loss from career disruption English research paper 2012*; 24, (Jongsoog Kim and Taek-meon Lee)、成城大学グローバル研究センター *Theories about and strategies against hegemonic social sciences* (editors, Michael Kuhn, Shujiro Yazawa ; associate editor, Kazumi Okamoto)、Policy study for improving "job creation policy" in the social service sector V : social enterprise for women workers in the care sector / Researcher in charge, Oh Eun-jin ; joint researchers, Kim Nan-ju, Chang Won-bong English research paper 2012 ; 19 Korean Women's D, *Summary of the status of the application of the divorce-by-agreement system and its improvement methods* (chief researcher, Bok-Soon Park)、Korean Women's D *Public survey on the practices of gender equality and the barrier factors: focusing on academic, interpersonal and extracurricular activities in campus life* (Ahn Sang-Sued. at al.)、Korean Women's D *Economic growth strategy and job creation for women in the service sector* (Tae-hong Kim, Bok-tae Kim, Ho-joong Bae)、Korean Women's D *The current status of flexible work arrangement implementation and measures to facilitate the flexible working arrangements (2011)* (Yang In-Sook, Moon Mi-Gyeong)、Korean Women's D *2011 KLoWF and 3rd wave descriptive analysis reports* (chief researcher, Yi Tack-meon; co-researchers, Joo Jae-seon, Song Chi-seon, Kang Seok-hoon)、Korean Women's D *An analysis of the Korean taxation system using a gender perspective : individual income tax and earned income tax credit* (chief researcher, Young-Sook Kim ; co-researchers, Sun-Joo Cho, Ga-Won Chung, Soon-Hyun Kwon)、川島慶子 *Émilie du Châtelet et Marie-Anne Lavoisier: science et genre au XVIIIe siècle* (Keiko Kawashima; traduit du japonais par Ayako Lécaillé-Okamura; avec un avant-propos d'Élisabeth Badinter)、竹村和子 *Leni Riefenstahl : a memoir*、

関未玲、*Le dictionnaire universel des créatrices / sous la direction de Béatrice Didier, Antoinette Fouque, Mireille Calle-Gruber ; lettrines dessinées par Sonia Rykiel t. 1*、関未玲 *Le dictionnaire universel des créatrices / sous la direction de Béatrice Didier, Antoinette Fouque, Mireille Calle-Gruber ; lettrines dessinées par Sonia Rykiel t. 3*、CAW ネット・ジャパン *アジアの女性労働者の現状と課題：今をつなぐ、未来につなげる= Current situation and challenges faced by Asian women workers : connecting and being connected now and future*、関未玲 *Le dictionnaire universel des créatrices / sous la direction de Béatrice Didier, Antoinette Fouque, Mireille Calle-Gruber ; lettrines dessinées par Sonia Rykiel t.2*、ジェンダー研究センター *Gender, sexuality, and reproductive health in Northern Thailand* (Chiraluck Chongsatitmun, Raynou Athamasar, Peungpich Jakping)、ジェンダー研究センター *The third sex: kathoey, Thailand's ladyboys* (Richard Totman)、ジェンダー研究センター *Visions of a nation: public monuments in twentieth-century Thailand* (Ka F. Wong)、ジェンダー研究センター *Sex slaves: the trafficking of women in Asia* (Louise Brown)、ジェンダー研究センター *Travels in the skin trade: tourism and the sex industry* (Jeremy Seabrook)、ジェンダー研究センター *No money, no honey!* (David Brazil)、ジェンダー研究センター *Women, gender relations and development in Thai society v 1* (Virada Somswasdi & Sally Theobald eds.)、ジェンダー研究センター *Women, gender relations and development in Thai society v. 2* (Virada Somswasdi & Sally Theobald eds.)、ジェンダー研究センター *Thai girl: the new novel* (Andrew Hicks)、ジェンダー研究センター *Women and violence, human rights and armed conflict: Women in development discussion paper series 7*

ジェンダー研究センター彙報<平成26年度>

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

職名は発令時による

平成26 (2014) 年度研究プロジェクト概要

	年月日	テーマ	報告者、評者等
日本学術振興会・二国間交流事業共同セミナー	平成26年12月10日～12月14日	韓国政治学会女性政治分科会 「女性の政治・経済進出の日韓比較——現状、取り組み、エンパワーメント」	【報告】足立眞理子(本学大学院教授/IGSセンター長)、斉藤悦子(本学准教授)、大山七穂(東海大学教授)、大木直子(IGS研究協力員/本学ほか非常勤講師) 【コメント】足立眞理子(本学大学院教授/IGSセンター長)、申琪榮(IGS准教授)、斉藤悦子(本学准教授)、大山七穂(東海大学教授)
国際シンポジウム	平成26年11月25日	「サステナビリティとジェンダー」 【主催】IGS、国連大学サステナビリティ高等研究所 【共催】地球環境パートナーシッププラザ 【後援】日本ユネスコ国内委員会、国立女性教育会館、国際協力機構(JICA) 【共催】フェリス学院大学	【報告】スーヒョン・チョイ(ユネスコ教育局 教育・学習内容部長(ピデオメッセージ))、ヒュンジュウ・ソン(韓国両性平等教育振興院教授)、萩原なつ子(立教大学教授)、高雄綾子(フェリス学院大学専任講師)、宮地尚子(一橋大学大学院教授)、岡部幸江(一般社団法人大磯エネフト理事長)、渡辺順子(大磯町議員、元議長) 【コメント】田中由美子(JICA国際協力専門員)、北村友人(東京大学大学院教育学研究科准教授) 【司会】館かおる(IGS客員研究員/本学名誉教授)、菅野零(ユネスコ職員/IGS客員研究員)
公開シンポジウム	平成26年5月31日	「男女共同参画は学問を変えるか？」 【主催】日本学術会議社会科学委員会ジェンダー研究分科会、複合領域ジェンダー分科会、史学委員会歴史学とジェンダー分科会、法学委員会ジェンダー法分科会、科学者委員会男女共同参画分科会 【後援】日本女性学会、日本フェミニスト経済学会、国際ジェンダー学会、ジェンダー法学会、ジェンダー史学会、日本語ジェンダー学会、人文社会科学系男女共同参画学協会連絡会設立準備会、IGS、明治大学法科大学院ジェンダー法センター、明治大学情報コミュニケーション学部ジェンダーセンター、一橋大学大学院社会学研究科ジェンダー社会科学センター、早稲田大学ジェンダー研究所、東京女子大学女性学研究所、城西国際大学ジェンダー・女性学研究所、大阪府立大学女性学研究所、京都橋大学女性歴史文化研究所、愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所、立教大学ジェンダーフォーラム、北海道大学大学院文学研究科応用倫理研究教育センター、イメージ&ジェンダー研究会、女性科学研究者の環境改善に関する懇談会、認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク	【報告】上野千鶴子(日本学術会議第一部会員/東京大学名誉教授)、小館香椎子(日本学術会議連携会員/日本女子大学名誉教授)、有信睦弘(日本学術会議第三部会員/東京大学監事)、新井民夫(日本学術会議第三部会員/芝浦工業大学教育イノベーションセンター教授)、江原由美子(日本学術会議第一部会員/首都大学東京大学院人文科学研究科教授)、岡野八代(同志社大学大学院グローバルスタディーズ研究科教授)、和泉ちえ(千葉大学大学院人文社会科学研究科教授)、桃井眞理子(日本学術会議第二部会員/国際医療福祉大学副学長)、中西準子(独立行政法人産業技術総合研究所フェロー) 【コメント】加藤万里子(慶應義塾大学理工学部教授)、貴堂嘉之(一橋大学大学院社会学研究科教授)、藤垣裕子(日本学術会議連携会員/東京大学大学院総合文化研究科教授) 【司会】後藤弘子(日本学術会議第一部会員/千葉大学大学院専門法務研究科教授)、大沢真理(日本学術会議第一部会員/東京大学社会科学研究所教授)
	平成27年3月14日	「2015年国際女性デーシンポジウム」 【主催】日仏女性研究学会 【共催】公益財団法人日仏会館、日仏会館フランス事務所 【後援】ジェンダー法学会、IGS	【報告】藤塚康江(東北大学法学部教授)、井上たか子(獨協大学名誉教授/日仏女性研究学会会員)、松島雪江(日本大学法学部准教授)、神尾真知子(日本大学法学部教授、日仏女性研究学会会員) 【コメント】武川恵子(内閣府男女共同参画局長)、小沼イザベル(フランス国立東洋言語文化研究所INALCO) 【司会】長谷川イザベル(上智大学名誉教授/日仏女性研究学会会員)、石田久仁子(日仏女性研究学会事務局代表代行)
講演会	平成26年6月3日	証言を聴く会「フィリピン元日本軍「慰安婦」エステリーター・ディさんを迎えて」 【主催】第12回日本軍「慰安婦」問題アジア連帯会議実行委員会、IGS	【講演】エステリーター・ディ 【コメントーター】柴崎温子(日本軍「慰安婦」問題アジア連帯会議実行委員会)、レチルダ・エクストレマデラ(LILA-Pilipina Exective Director) 【通訳】澤田公伸(まにら新聞) 【司会】申琪榮(IGS准教授)
	平成26年12月17日	サンドラ・ハーディング講演会 「ミスター・ノーウェアのあとに —— フェミニストの客観性、そして科学的主体とは何か」 【主催】IGS	【講演】サンドラ・ハーディング(UCLA栄誉教授) 【挨拶】足立眞理子(本学大学院教授/IGSセンター長) 【司会】山本央子(1325号NAP市民連絡会コーディネーター)
研究会	平成26年7月3日	2014年度第1回IGS研究報告会 【主催】IGS	【報告】大木直子(IGS研究協力員/本学ほか非常勤講師)、ユンジソ(IGS研究協力員/カンザス大学教員) 【コメント】申琪榮(IGS准教授)、雑賀葉子(本学大学院博士後期課程) 【司会】平野恵子(IGS研究機関研究員)
	平成26年7月10日	第1回「政党行動と政治制度」研究会 「国際比較からみた国会審議の特色と問題点」 【共催】「政党行動と政治制度」研究会、IGS	【報告】大山 礼子(駒澤大学法学部教授) 【司会】申琪榮(IGS准教授)
	平成27年2月18日	2014年度第2回IGS研究報告会 【主催】IGS	【報告】太田麻希子(IGS研究協力員/明治学院大学ほか非常勤講師) 【司会】足立眞理子(本学大学院教授/IGSセンター長)

1. 人事関係

1) 運営委員会名簿(括弧内は在任期間)

ジェンダー研究センター長・人間文化創成科学研究科教授	足立 真理子	(平成19年4月1日～平成27年3月31日)
ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科准教授	申 琪榮	(平成20年4月1日～平成27年3月31日)
ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科教授	石井クンツ昌子	(平成20年4月1日～平成27年3月31日)
ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科教授	棚橋 訓	(平成20年4月1日～平成27年3月31日)
人間文化創成科学研究科教授	米田 俊彦	(平成16年4月1日～平成27年3月31日)
人間文化創成科学研究科教授	真島 秀行	(平成16年4月1日～平成27年3月31日)
人間文化創成科学研究科教授	宮尾 正樹	(平成19年4月1日～平成27年3月31日)
人間文化創成科学研究科教授	小玉 亮子	(平成23年4月1日～平成27年3月31日)
人間文化創成科学研究科准教授	斉藤 悦子	(平成24年4月1日～平成27年3月31日)

2) スタッフ名簿(括弧内は在任期間)

センター長(併)	足立 真理子	(平成19年4月1日～平成27年3月31日)
	申 琪榮	(平成20年4月1日～平成27年3月31日)
客員研究員	戒能 民江(お茶の水女子大学名誉教授)	(平成23年4月1日～平成27年3月31日)
	伊藤 るり(一橋大学大学院教授)	(平成20年4月1日～平成27年3月31日)
	菅野 琴(元駐ネパールユネスコ代表・元ユネスコ本部職員・国立女性教育会館客員研究員)	(平成20年4月1日～平成27年3月31日)
	館 かおる(お茶の水女子大学名誉教授)	(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

研究協力員

ジソ・ユン(カンザス大学政治学部専任講師)
(平成26年4月1日～7月31日)

大木 直子(お茶の水女子大学ほか非常勤講師)
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

太田 麻希子(明治学院大学ほか非常勤講師)
(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

研究機関研究員

平野 恵子 (平成25年4月1日～平成27年3月31日)

研究支援推進員

板井 広明 (平成22年12月1日～平成27年3月31日)

アカデミック・アシスタント

吉原 公美 (平成22年5月1日～平成27年3月31日)

アカデミック・アシスタント

梅田 由紀子 (平成26年4月1日～平成27年3月31日)

研究員(科学研究費)

滝 美香 (平成23年5月1日～平成27年3月31日)

2. 会議関係

＜運営委員会の開催＞

平成26年4月18日・平成27年2月24日

3. 研究調査活動

1) センター研究プロジェクト

「グローバル金融危機以降におけるアジアの新興/成熟経済社会とジェンダー」

<科学研究費基盤研究 A>

【研究担当】

足立真理子 (IGS センター長)

申琪榮 (IGS 准教授)

齋藤悦子 (本学准教授)

姉齒暁 (駒澤大学教授)

山田和代 (滋賀大学准教授)

金井郁 (埼玉大学准教授)

堀芳枝 (恵泉女学園大学准教授)

長田華子 (茨城大学准教授)

館かおる (本学名誉教授、IGS 客員研究員)

太田麻希子 (IGS 研究協力員、明治大学ほか非常勤講師)

滝美香 (IGS 研究員 (科学研究費))

【研究内容】

本年度は、最終年度にあたり、成果報告のまとめを中心とした。

メンバーによっては、追加調査の必要性もあり、適宜、海外調査、国際学会報告で補強している。最終成果報告書は、第 1 部において「理論および現状分析」論文を所収し、第 2 部において、インタビュー調査その他で収集した資料を収録している。

とくに、最終年度においては、「金融領域のグローバル化とジェンダー」における、新たな視角の提示「金融排除/包摂のジェンダー分析:メゾレベル」の理論化と調査分析を行っている。

「女性大統領と女性の政治的的代表性:韓国の朴槿恵を中心に」

<科学研究費補助金基盤研究 C>

【研究担当】

申琪榮 (IGS 准教授)

【研究内容】

韓国の女性大統領の誕生過程、とりわけ大統領選挙におけるキャンペーン戦略やその内容を分析した。キャンペーン資料、新聞記事、世論調査資料などを幅広く収集し分析した。初の女性大統領のシンボリックな意味は大きく、野党の男性候補者よりも革新性がアピールできた。特に 50 代以上の女性有権者はパクに期待をよせ「女性だから」と彼女に投票した。しかし、パクは任期 2 年目が終わる現時点まで特に女性有権者の期待に応えるような政策は打ち出しておらず、閣僚もほとんど男性のみを任命してきた。その意味でパク大統領は自ら女性であっても女性の象徴的な代表性以外に実質的な代表性に

著しく欠けていると言わざるを得ない。

「女性の政治・経済進出の日韓比較——現状、取り組み、エンパワメント (Women's Political and Economic Participation in Japan and Korea: Empowerment Beyond Numbers)」

<日本学術振興会 二国間交流事業共同セミナー>

【研究担当】

足立真理子 (IGS センター長)

申琪榮 (IGS 准教授)

齋藤悦子 (本学准教授)

大山七穂 (東海大学教授)

大木直子 (IGS 研究協力員/本学ほか非常勤講師)

平野恵子 (IGS 研究機関研究員)

【研究内容】

本セミナーは、女性の政治・経済分野への進出という共通の課題を抱えながら異なる取り組みを試みてきた日本と韓国において、両国の政治・経済学の研究者がジェンダー分析を用い、女性の政治・経済進出の現状、公的な取り組み、女性のエンパワメントへの成果を比較研究し、その研究成果を共有することを目的とした。

日本から 6 名、韓国から 10 名が参加し、5 日間の日程で共同セミナーを実施した。開催の場所はソウル市にあるソウル市立大学とし、日本側代表者による公開講義、非公開のセミナーを経て、広く研究成果を発信するために韓国政治学会で二つの共同パネルを設け研究成果を発表した。

学術セミナー以外にも、女性が働きやすい企業として知られているユハン・キンバリー社を訪問し、企業が実施している様々な新しい取り組みについて説明を受けた。また、女性管理職の 3 名に管理職に至った過程や経験をうかがうことが出来た。さらに、政治分野においてもソウル市下区議会の前・現職女性議員 3 名をお招きし、地方議会における女性議員の役割や困難についてお話をうかがった。

以上を通して、短いセミナー日程であったにもかかわらず、韓国の政治経済分野における女性の現状や取り組みを理解することが可能となり、また日本との比較によって日韓の相違点が明らかになった。今回の成果を活かし、今後さらに交流を深めて共通の研究課題に一層深く取り組むことが可能となったといえる。

なお、今回の成果は別途報告書としてまとめ、関係者に配布・共有する予定である。

「移住労働女性のこどもと宗教的禁忌に関する研究——インドネシア西ジャワ州を事例として」

<科学研究費若手研究 B>

【研究担当】

平野恵子 (IGS 研究機関研究員)

【研究内容】

今年度は、改正国籍法と子ども保護法における移住家事介護労働者のこどもの法的地位に関し、送り出し村であるインドネシア西ジャワ州チアンジュール県の山村で聞き取り調査をおこなった。非嫡出子の法的地位については、仮説に反して実子としての登録が多くみられ、その過程で登録におけるジェンダー格差が明らかとなった。ほかにも統計データの入手ならびに法令翻訳をおこなった。

成果発表として、アジア政経学会での学会報告(2014年10月18日)。

Keiko HIRANO, "When Working Abroad Becomes a Dosa (Sin): The Impact of Women's Migrant Domestic Labor on the Gender Relations in Rural Indonesia" *REMI*. Forthcoming.

「日本の都市部における女性の政治参加についての研究：首都圏の自治体を事例に」

<科学研究費若手研究 B><日韓文化交流基金>

【研究担当】

尹智昭 (IGS 研究協力員、カンザス大学教員)

大木直子 (IGS 研究協力員、本学ほか非常勤講師)

申琪榮 (IGS 准教授)

【研究内容】

本研究は大きく3つに内容が別れる。第一に、都市部の女性に対する聞き取り調査の準備段階として、大木と尹は、日本と韓国の地方議会選挙データを比較・検討し、両国の地方議会における女性の政治参加の特徴を議会別、政党別に整理した。これらの調査結果は平成26年7月3日のIGS研究交流会にて発表した。第二に、メンバー3人で東京都の生活者ネットワークの元メンバーと元議員の2名にインタビュー調査を行った。現在、データの分析中であるが、そのデータの一部を各自の研究報告書、研究発表会、所収論文 (Shin, Ki-young, forthcoming, "Women's Mobilizations for Political Representation in Patriarchal States: Models from Japan and South Korea," in Mino Vianello and Mary Hawkesworth (eds.), *Gender and Power: Toward Equality and Democratic Governance*, Palsgrave MacMillan.) 等で発表する予定である。さらにサンプル数を増やした上で、IGS研究交流会や学会等での報告、論文投稿を予定している。第三に、大木はH27年度に実施される統一地方選挙に向けて、これまでの地方議会における女性割合のデータを分析・整理し、地方議員の研修雑誌(『地方議会人』)に論考を投稿した。

「サステナビリティとジェンダー2014」

<国連大学・お茶の水女子大学共催シンポジウム経費>

【研究担当】

館かおる (本学名誉教授、IGS 客員研究員)

菅野琴 (IGS 客員研究員)、佐藤美和 (本学大学院研究院研究員)

【研究内容】

「ESD (持続可能な発展のための教育) ユネスコ世界会議」の日本開催を機に、2014年11月1日に国連大学と本学による国際シンポジウム「サステナビリティとジェンダー」を主宰した。午前の部では、ユネスコ教育局のスーヒョン・チョイ部長の報告、韓国两性平等教育振興院ソンの「ポスト2015におけるジェンダー課題と挑戦」と題する講演を行った。午後の部は、福島原発事故を経験した日本からジェンダー視点を持つ持続可能性についての研究や活動を共有し、未来に繋げる意図のもとに報告が行われた。萩原なつ子氏によるエコロジカル・フェミニズムの視座からの報告、高雄綾子氏のチェリノブイリ事故後のドイツの母親たちの運動の分析、宮地尚子氏からは震災と原発事故という二重のトラウマを負う女性たちへの精神分析からの提言、渡邊順子氏と岡部幸江氏は神奈川県大磯町でのエネルギーシフトの取組みと条例づくりの報告が行われた。田中由美子氏からは、開発とジェンダー/エンパワーメントの観点、北村友人氏からは、多様な参画者による女性主導のESDの活動についてのコメントがあった。本シンポジウム後に開催されたユネスコ世界会議では、サイドイベント「Why Gender Matters in ESD?」を組織し、本シンポジウムの成果を報告した。

「分断された都市空間を繋ぎ合わせる——フィリピンにおける国内外貨獲得部門の興隆と移住二世世代女性の時空間」

【研究担当】

太田麻希子 (IGS 研究協力員)

足立真理子 (IGS センター長)

【研究内容】

本研究は、グローバル金融危機以降に本格化してくる、フィリピンにおけるコールセンターを中心としたBPO産業の成長と新しい女性雇用の拡大、就業構造の変容をもたらしたマニラ首都圏の低所得層への影響を明らかにしようとするものである。本年度の研究成果は以下の通りである。第一に、首都圏を中心とした外貨獲得部門の動態と女性の労働、世帯の状況を把握するために、主にフィリピン政府が発行している国勢調査や労働統計、事業所統計に基づいた研究論文を執筆・投稿した。第二に、第一点を踏まえながら、都市周縁部に立地するスクオッター集落でこれまでに実施した調査のデータを元に集落の世帯構造の特徴について検証した。なお、これらのデータは主に2007年前半という、フィリピンのBPO産業の成長が本

格化する前後の世帯調査に拠っているため、今後はマクロな変動の影響の深度や広さを計るために経年調査を実施したい。

「アジアにおける女性に対する暴力シェルター調査研究」

【研究担当】

戒能民江（本学名誉教授、IGS 客員研究員）

申琪榮（IGS 准教授）

【研究内容】

研究会を組織して、先行調査研究および文献の検討・整理を行ない、調査設計の参考とした。また、台湾およびマレーシアから民間シェルター関係者を招聘して、各国の状況の報告を受けるとともに、意見交換を行った。

4. 研究交流・社会連携部門

平成 26 年 4 月から平成 27 年 3 月の間の活動は次の通りである。

(1) 研究交流会

①第 1 回研究交流会

平成 26 年 7 月 3 日に 2014 年度第 1 回 IGS 研究報告会を開催。大木直子（IGS 研究協力員／お茶の水女子大学ほか非常勤講師）とユン・ジソ（IGS 研究協力員／カンザス大学教員）が「地方議会における女性の政治的的代表性——日本と韓国の比較（Women's Political Representation in Local Legislatures: A Japan-Korea Comparison）」と題し、報告をおこなった。大木氏ならびにユン氏の専門は政治学であり、今回は日本と韓国の地方議会における女性の代表性をテーマとした共同報告となった。制度変更による女性の代表性への影響を考察する本報告では、選挙制度の変更とクォータ制の導入が女性議員の量的増加にとって重要な要素となっている韓国の地方議会の事例が前半に、選挙区や定数の変化といった制度の変更がみられる日本の地方議会の事例が後半に取り上げられ、制度変更による女性の代表性への肯定的、否定的な影響の両側面が明らかにされた。報告に対し、雑賀氏は、制度変更への女性運動の関わりを指摘した。また申氏は、比較研究にあたっての共通項と差異を指摘し今後の研究展開への期待を示した。フロアからは、制度変更に加えて制度が変化する際の政治的・社会的背景について言及がなされ、報告者との活発な議論のやり取りがおこなわれた。地方議会レベルでの女性の代表性に焦点を当てる比較研究、特にアジアを事例とした先行研究は非常に少なく、今後の研究展開が待たれる興味深い成果報告であった。

②第 2 回研究交流会

平成 27 年 2 月 18 日（水）に 2014 年度第 2 回 IGS 研究交流会を開催。太田麻希子（IGS 研究協力員／明治学院大学ほか非常勤講師）が「都市周縁から CBD へ——マニラの外貨獲得部門における女性労働と居住の変容」と題する研究報告をおこなった。太田氏の専門は、フェミニスト地理学。フィリピン・マニラにおける近年の就業および空間構造の変化、そして不平等な都市開発の在り方がスラムにいかなるインパクトをもたらしたのか、2000 年代以降の女性の就業により検証し、女性の単身世帯形成可能性とその含意について論じる報告であった。先行研究においては郊外化が叫ばれ、CBD と郊外がフライオーバーや高架鉄道で結ばれる景観が、第一世界と第三正解の新しい労働分業を具現化しているとの指摘がなされてきたが、太田氏の指摘では、サービス経済化と郊外化に伴って、首都圏内の工場労働と家事労働という低所得者層向けの女性の典型的就業機会が減少すると同時に、CBD を中心とした BPO 産業に代表される新たなサービス産業の成長により、オフィスワーク就業層が現れ始めた。先行研究ではまた、中間層と労働者／農民という不平等な階層構造の世代を超えた継続性についても議論されてきたが、本報告では、女性オフィスワーカーの存在を通して、その継続性にも疑義を申し立てている。2000 年代における高学歴化とオフィスワークへの就業機会の拡大が階層構造の変化にもたらす影響を、2007 年からの断続的現地調査に基づき検討した本報告は、マニラ首都圏を事例として最新の研究動向を示す非常に刺激的な内容であった。フロアからは、階層上昇移動の要因や、今後の現地調査について質問がなされた。

(2) セミナー、シンポジウム、講演会、研究会

①5 月 31 日〈公開シンポジウム〉

「男女共同参画は学問を変えるか？」 【報告】上野千鶴子（日本学術会議第一部会員／東京大学名誉教授）、小館香椎子（日本学術会議連携会員／日本女子大学名誉教授）、有信睦弘（日本学術会議第三部会員／東京大学監事）、新井民夫（日本学術会議第三部会員／芝浦工業大学教育イノベーションセンター教授）、江原由美子（日本学術会議第一部会員／首都大学東京大学院人文科学研究科教授）、岡野八代（同志社大学大学院グローバルスタディーズ研究科教授）、和泉ちえ（千葉大学大学院人文社会科学研究所教授）、桃井真理子（日本学術会議第二部会員／国際医療福祉大学副学長）、中西準子（独立行政法人産業技術総合研究所フェロー）。【コメント】加藤万里子（慶應義塾大学理工学部教授）、貴堂嘉之（一橋大学大学院社会学研究科教授）、藤垣裕子（日本学術会議連携会員／東京大学大学院総合文化研究科教授）。【司会】後藤弘子（日本学術会議第一部会員／千葉大学大学院専門法務研究科教授）、大沢真理（日本学術会議第一部会員／東京大学社会科学研究所教授）。IGS 後援シンポジウム。

②6 月 3 日〈講演会〉

証言を聴く会「フィリピン元日本軍「慰安婦」 エステリータ・ディさんを迎えて」IGS 主催。【講演】エステリータ・ディ、【コメントター】柴崎温子（日本軍「慰安婦」問題アジア連帯会議実行委員会）、レチルダ・エクストレマデュラ(LILA-Pilipina Exective Director)、【通訳】澤田公伸（まにら新聞）、【司会】申瑛榮（IGS 准教授）。フィリピンより元日本軍「慰安婦」のエステリータ・ディさんをお迎えして、証言を聴く会を開催した。当日は、ディさんたちロラ（フィリピン語でおばあさんの意）を支援しているリラ・ピリピナより、レチルダ・エクストレマデュラさん、そして日本軍「慰安婦」問題アジア連帯会議実行委員会より柴崎温子さんがコメントをおこなった。通訳は澤田公伸さんが、司会は申瑛榮本学教員が務めた。はじめに、柴崎さんよりフィリピンにおける戦争の状況や「慰安婦」の強制連行の経緯など当時の状況について説明がなされ、次に、ディさんからの証言がおこなわれた。ディさんは、自らの半生をその場の風景が見えるような詳細な語りで描き出して下さった。特に、髪を掴まれ手を引っ張られた強制的な連行時の様子、そしてその後の性暴力の被害を、身ぶり手ぶりを交えて語って下さった。日本兵の撤退により解放された後も自分の秘密を打ち明けることが出来ず戦時中の経験を忘れるためにマニラに向かったディさんが故郷に戻ったのは、50年経った後であったという。ディさんの証言に続いて、エクストレマデュラさんよりロラたちを支援するにいたる経緯と内容、そして本問題に関する「責任」の取り方について話があった。戦争犯罪被害者への謝罪、彼女たちの社会福祉の充実、そして歴史教科書への記載がロラたちへの正義の回復となることが説明された。またこの問題は、ロラたちだけの闘いではなく、国連が認定する戦争犯罪である戦時性暴力から次世代であるわれわれ自身を守り安心して暮らすための問題であること、すなわち聴衆であるわれわれ自身も当事者であることが強調された。最後に、ロラたちに付き添い通訳を務める澤田さんより、「私たちにできること」として具体的なロラたちへの支援方法が提示された。質疑応答の時間には、フロアより多くの質問、コメントがなされた。「慰安婦」と名付けられ呼びかけられることの意味や、留学生の自国での「慰安婦」問題の取り上げられ方、連帯の意義について質疑応答がなされた。本証言会は、当事者の声を聴くという貴重な機会であったと同時に、戦争犯罪をわれわれ自身の問題として捉え直す重要な契機となった。

③7月10日〈研究会〉

第1回「政党行動と政治制度」研究会「国際比較からみた国会審議の特色と問題点」。IGS 共催。7月10日に、第一回「政党行動と政治制度」研究会が行われた。本研究会は2014年度に上智大学・三浦まり氏、東京大学・スティール若希氏、本学・申瑛榮氏の3名を中心メンバーとして立ち上げられた研究会であり、そのスタートとして当センターと共催による講演会が開催された。第一回研究会では、

国会研究を専門とする大山礼子氏を迎えて、国際比較から見た日本の国会審議の特色と問題点について講演が行われた。大山氏は、まず、日本の国会の特異性として、女性議員が圧倒的に少ないこと、審議時間が短いこと、実質的審議がほとんど行われていないことを指摘し、特に、日本の国会が、強力で分権的な常任委員会制度を持ち、充実した立法補佐機構を有しているにもかかわらず、法案修正がほとんど行われないことが海外の研究者の間で長年「謎」とされていることを強調した。その主な要因として、55年体制下で確立された事前審査制度の確立、および、議院内閣制下の政府と国会の「切斷」が挙げられ、それらが議院内閣制および立法過程に与える否定的な側面が明らかになった。最後に大山氏は、日本の議院内閣制を維持すべきとの立場から、国会審議を実質化するための改革案を提示した。質疑では、事前審査体制に関する質問やコメントが多く出された。事前審査の野党にとってのメリット、日本以外に事前審査が存在しない要因、マニフェストに基づく政策決定と事前審査の関係、請願の効力などについて質問が出された。国会審議の形骸化に関連して、国会議員の質の低下の傾向や選挙制度の見直しの必要性などのコメントがあった。さらにジェンダーの視点から、事前審査で予算も対象とするのは日本の特徴なのか、また事前審査が強力な状況では与党に関心がなければジェンダー関連立法は難しいのかなどの問いかけがあった。予報通りの悪天候となり、帰宅の足が心配される中にもかかわらず、多方面から多くの参加者を得て、最後まで熱心な質疑応答が行われた。

④11月25日〈国際シンポジウム〉

「サステイナビリティとジェンダー」【主催】IGS、国連大学サステイナビリティ高等研究所。2014年11月1日に国連大学ウ・タント国際会議場において、国際シンポジウム「サステイナビリティとジェンダー」が開催された。同シンポジウムは、本年11月に、持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議が日本で開催されることになみ、ジェンダーの観点から「サステイナビリティ」を検討し、併せてESDに関わる教育の役割について考える機会とするため、お茶の水女子大学ジェンダー研究センターと、国連大学サステイナビリティ高等研究所が中心となり主催したものである。国内外から広く関心を集め、関係者も含めると約200名が参加した。午前の部では、まずユネスコ教育局・チョイ氏からのビデオメッセージ「持続可能な開発のための教育とジェンダー——未来へつなぐもの」、続いて韓国両性平等教育振興院・ソン氏による「ポスト2014/2015年国際開発アジェンダとジェンダー課題」の基調報告がなされた。これまでの政策を検証し、2015年から始まる「持続可能な開発目標SDGs」に向けてのジェンダー課題の方向性について、有益な質疑応答がなされた。午後の部では、立教大学・萩原氏による「エコロジカル・フェミニズムの超克」、フェリス女学院大学・高雄氏に

よる「(不安) から (ビジョン) へ——ドイツ市民運動と福島との接点」、一橋大学・宮地氏による「震災におけるトラウマとジェンダー」、大磯町議員・渡辺氏による「小さな議会のエネルギー条例づくり——3・11 後のとりくみ」、大磯エネシフト・岡部氏による「地域からのエネルギーシフト——3 万人のまちからできること」の5報告がなされた。エコフェミニズムの展開可能性、チェリノブイリ原発事故の経験をもつドイツでの市民運動の広がり、被災がもたらす負荷とメンタル面の問題、そして再生エネルギーへの自治体の取り組みと地域運動との連携という事例を踏まえた提言まで、幅広い視点に立ちつつも、包括的な議論が提示された。これを受けての全体討議では、コメンテーターとして JICA・田中氏と東京大学・北村氏を迎え、会場との質疑も含めて活発な議論が展開された。本シンポジウム開催にあたっては、現在ジェンダー研究センター客員研究員の館かおる及び菅野琴の両氏により、これまで IGS の研究プロジェクトとして推進してきた活動の蓄積のもとに、国内外の研究者、議員、団体職員など多様なスピーカーを招き、充実したシンポジウムとなった。とりわけ、2011 年 3 月 11 日の東日本大震災によって甚大な自然災害と原発事故を経験した日本から、持続可能で公正な社会へ向けての変革の動きを発信する貴重な機会となったといえる。なお同シンポジウムの成果は、菅野氏を中心とするチームによって 11 月 10 日に名古屋国際会議場において開催された ESD ユネスコ世界会議サイドイベント「Why gender matters in ESD」(なぜ ESD にジェンダーが重要か?) で報告された。

⑤12月10日～12月14日〈日本学術振興会・二国間交流事業協同セミナー〉

「女性の政治・経済進出の日韓比較——現状、取組み、エンパワーメント」韓国政治学会女性政治分科会。【報告】足立真理子(本学大学院教授/IGS センター長)「日本の女性政策とアベノミクスの現在」、斉藤悦子(本学准教授)「日本企業のポジティブ・アクションの取組みと現状」、大山七穂(東海大学教授)「女性政治家の質的代表性——女性国会議員は女性を代表するか」、大木直子(IGS 研究協力員/本学ほか非常勤講師)「地方議会における政党のリクルートメントと女性——神奈川県を事例に」。【コメント】足立真理子(本学大学院教授・IGS センター長)、申琪榮(IGS 准教授)、斉藤悦子(本学准教授)、大山七穂(東海大学教授)。

⑥12月17日〈講演会〉

サンドラ・ハーディング講演会「ミスター・ノーウェアのあとに——フェミニストの客観性、そして科学的主体とは何か」。12月17日にサンドラ・ハーディング氏(UCLA 栄誉教授)を迎えて、「ミスター・ノーウェアのあとに——フェミニストの客観性、そして科学的主体とは何か」と題する講演会を開催した。氏は、第一波フェミニストとして、その業績が広く知られている。講演では、著書『科学

と社会的不平等——フェミニズム、ポストコロニアリズムからの科学批判』(北大路書房)で展開された、フェミニスト視点からの科学と価値中立性に関する論が提示された。フェミニズム、ポストコロニアリズムなど、社会正義の運動にコミットする立場からの科学がもとめる客観性とは、そして科学的主体とは、どういうものか。価値中立性を謳う科学は、恣意性から切断可能であるという前提で議論されてきた。しかしながら、ハーディング氏によれば、これは、弱い客観性に過ぎない。支配的な価値なり政治的主張に沿った形で価値中立に過ぎず、結果として男性支配的な方向への科学実践の推進力となってきた。ここからハーディング氏が主張するのは、価値中立性を自覚した「強い客観性」である。他の学問、専門領域と有機的にリンクし、互いに排除しないスタンス・ポイント理論は、これまで「科学的である」とはみなされていなかった女性の生活や身体の問題に向かって、直接的に、そして政治的な接続可能性を含んでいる。以上の講演を受けて、社会調査法やアクションリサーチ、そして伝統的な知の生産制度からの脱却がいかに可能となるかと言った政治的理論的な指摘や質問が熱心になされた。

⑦平成 27 年 3 月 14 日〈公開シンポジウム〉

「2015 年国際女性デーシンポジウム」【主催】日仏女性研究学会、【講演】IGS。【報告】糠塚康江(東北大学法学部教授)、井上たか子(獨協大学名誉教授/日仏女性研究学会会員)、松島雪江(日本大学法学部准教授)、神尾真知子(日本大学法学部教授、日仏女性研究学会会員)、【コメント】武川恵子(内閣府男女共同参画局長)、小沼イザベル(フランス国立東洋言語文化研究所 INALCO)、【司会】長谷川イザベル(上智大学名誉教授/日仏女性研究学会会員)、石田久仁子(日仏女性研究学会事務局代表代行)。

(3) 関連研究会

①「フェミニスト経済学」研究会

<コーディネーター>足立真理子(IGS センター長)、伊田久美子(大阪府立大学教授)

②「映像表現とジェンダー」研究会

<コーディネーター>館かおる(IGS 教授)、小林富久子(早稲田大学教授)

<事務局>磯山久美子(立教大学ほか非常勤講師)、臺丸谷美幸(本学みがかずば研究員)ほか

③日米女性政治学研究者ネットワーク (JAWS)

<コーディネーター>申琪榮(IGS 准教授)

<事務局>大海篤子、大木直子(IGS 研究協力員/本学ほか非常勤講師)

④「国際移動とジェンダー (IMAGE)」研究会

<コーディネーター>伊藤るり (IGS 客員研究員・一橋大学教授)
<メンバー>足立真理子 (IGS センター長)、小ヶ谷千穂 (横浜国立大学准教授)、定松文 (恵泉女学園大学教授)、稲葉奈々子 (茨城大学准教授)、大橋史恵 (早稲田大学助教)、呉泰成 (一橋大学博士後期課程) 越智方美 (独立行政法人・国立女性教育会館)、平野恵子 (IGS 研究機関研究員)

(4) 国際連携プロジェクト (AIT)

(アジア工科大学院大学 (AIT) との連携事業)

本年度は、ワークショップ履修生の事前研修に博士前期課程の「フィールドワーク方法論」授業を導入し、フィールドワーク経験豊富な講師の指導の下で文献講読や国内での実習を経験した上で、タイでのフィールドワーク実践へ向かうという、段階的かつ達成目標の明確なプログラムとなった。その反面、円安の影響により本学院生の AIT 派遣期間が 8 日間に短縮され、かつ、「英語サマープログラム」での AIT 院生受け入れができなかったために交換研修の形式が取れなかったなどの難しい要素もあった。

【担当】足立真理子 (IGS センター長)、申琪榮 (IGS 准教授)、大橋史恵 (早稲田大学助教)、鈴木亜矢子 (本学博士後期課程)、吉原公美 (IGS アカデミック・アシスタント)

5. 教育・研修部門

①研究員

<学部>

平野恵子

リベラル・アーツ ジェンダー23 開発・社会変動とジェンダー (演習) (前期)

生活科学部 女性政策論 (前期)

大木直子

生活科学部 女性政策論 (前期)

②学部出講・大学院担当

<人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー学際研究専攻>

足立 真理子

フェミニスト経済学 (通年)

フェミニスト経済学演習 (通年)

ジェンダー学際研究論文指導 (通年)

ジェンダー学際研究報告 基礎・発展 (通年)

申琪榮

比較政治論 (前期)

ジェンダー学際研究論文指導 (通年)

<人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻>

足立 真理子

開発経済学 (前期)

開発経済学演習 (後期)

開発・ジェンダー論特論 (前期・オムニバス)

国際社会ジェンダー論演習 (前期 日下部京子・AIT 准教授と共同)

ジェンダー社会科学論 (通年 開発ジェンダー論コース全教員)

申琪榮

ジェンダー基礎論 (前期)

国際社会ジェンダー論演習 (前期 日下部京子・AIT 准教授と共同)

ジェンダー社会科学論 (通年 開発ジェンダー論コース全教員)

<学部>

足立 真理子

文教育学部 グローバル化と労働 (後期)

リベラル・アーツ ジェンダー2 グローバル経済とジェンダー (後期)

申琪榮

リベラル・アーツ 8 政治とジェンダー (前期)

国際ジェンダー論・比較ジェンダー論 (後期)

6. 社会貢献

ジェンダー研究センター

・諸外国/国内の女性関係行政部門、民間団体 (NGO の女性問題担当者等)、研究者等の視察受け入れ、日本の男女共同参画等の現状について解説など

足立真理子

<委員>

・日本学術会議連携会員経済学協会

・日本フェミニスト経済学会幹事

<講演等>

・変革のアソシエ特別講座「フェミニズム論 ローザ・ルクセンブルクを読む」(2014年5月22日、6月26日、7月24日、9月25日、10月23日)

- ・シンポジウム「現代中国におけるジェンダー・ポリティクスの新側面」(2014年10月19日)
- (その他)
- ・ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスとの交流
- ・ケンブリッジ大学との交流
- ・北京大学中外女性研究センターとの交流
- ・ストラスブール大学日本学学科/アルザス・欧州日本学研究所(CEEJA) 研究部図書プロジェクトとの交流
- ・ソウル市立大学政治学科との研究交流

申琪榮

(委員)

- ・ソウル大学日本学研究所『日本批評』海外編集委員
- ・アジア連帯会議実行委員
- (講演等)
- ・名古屋大学国際開発研究科特別講演(2014年5月16日)
- ・日本フェミニスト経済学会共通論題コメンテーター(2014年7月26日)
- ・暮らしと政治オープンセミナー「女性議員を増やすには——韓国のクオータ制に学ぶ」福岡市一校ネット主催(2014年9月27日)
- ・女性と人権全国ネットワーク基調講演(2014年9月28日)
- ・浩志会みなづき会11月定例会講演(2014年11月5日)
- ・国際女性デー2015(院内集会)「戦後70年。前へ」閉会の辞(2015年3月6日)
- (その他)
- ・ソウル大学日本学研究所との交流
- ・ソウル市立大学政治学科との研究交流

平野恵子

(委員)

- ・国際ジェンダー学会編集委員
- ・国際ジェンダー学会2014年度大会実行委員
- (講演等)
- ・立教大学第63回ジェンダーフォーラム

7. 文献・資料収集/情報提供/閲覧活動

1) 主要収集資料

文献資料収集・整理、寄贈図書の受け入れをおこなった。

2) 資料提供

- 元上智大学理工学部・笠 耐氏へ、『物理人名法則事典(仮)』湯浅年子の項目に掲載のため、湯浅年子のフランスの学位論文'Contribution à l'étude du spectre continue des rayons β -émis par les corps radioactifs artificiels.'を提供。
- お茶の水女子大学広報チーム・菊池慶文氏へ、本学HP・平成26年度「第2回湯浅年子賞」募集の案内への掲載のため、湯浅年子のスケッチを提供。
- お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科/図書・情報チーム・横山美和氏へ、2014年8月1日ジェンダー研究センターにて開催した宮城野高校2年次生への訪問学習開催(「近現代の新しい女性像」をテーマに講義)のための資料として、保井コノ資料、黒田チカ資料、辻村みちよ資料、湯浅年子資料を提供。
- 三猿舎・安田清人氏へ『もっと知りたい埼玉県の歴史』(仮)(洋泉社)掲載のため、辻村みちよ資料を提供。
- お茶の水女子大学図書情報課・染井 千佳氏へ、2015年1月より行われる特別展チラシ掲載のため、山崎美和恵資料「湯浅年子私用牛乳椀」、保井コノ私用顕微鏡、保井コノ天秤等を提供。
- 高エネルギー加速器研究機構 男女共同参画推進室・沼崎 静氏へ、2015年開催予定の理系女子キャンプポスター、及びリーフレット、及びイベントHPへの掲載のため、湯浅年子写真(パスポートの写真)を提供。
- お茶の水女子大学企画戦略課広報担当・菊池 慶文氏へ、第二回湯浅年子賞授賞式HP掲載用ポスター作成のため、湯浅年子写真を提供。
- 佐賀県立宇宙科学館・許斐修輔氏へ、佐賀県立宇宙科学館常設展示での「佐賀人物ファイル」、常設展示ガイドへの掲載のため、黒田チカ肖像写真を提供。
- その他、ジェンダー研究センター刊行物等

3) リファレンスサービス資料及び情報の提供・閲覧・貸出・常設展示

- コピーサービス: 常時附属図書館情報サービス・情報システム係で担当
- ホームページ(和文・英文)の更新実施
- 図書以外に関する情報提供

4) 図書・資料寄贈(敬称略)

掲載は、日本語文献: 寄贈者名『書名』(著者名)、外国語文献: 寄贈者名 書名(イタリック)(著者名)の順とした。

〈日本語文献〉

山崎美和恵『ピエール・キュリー伝』(M.キュリー著;渡辺慧訳)、ジェンダー研究センター『第4回世界女性会議・NGOフォーラム北京'95』、公共財団法人東海ジェンダー研究所『グローバル社会におけるコミュニティと女性の役割:公益財団法人東海ジェンダー研究所小冊子』(浜矩子)、公共財団法人アジア女性交流・研究フォーラム『津波被災地の復興における女性の役割:インドネシアのアチェ州と東北地方の比較を通して』(辰巳佳寿子,山尾政博,ズルハムシャ・イムラム)、公共財団法人アジア女性交流・研究フォーラム『現代台湾における子育てをめぐる言説の諸相とジェンダー』(宮崎聖子)、山崎美和恵『女は自由である』(石垣綾子)、昭和女子大学女性文化研究所『女性と家族』(昭和女子大学女性文化研究所編)、館かおる『女性学・ジェンダー研究の創成と展開』(館かおる)、大阪大学文学研究科・日本学研究室『「移動」から見た女性美術家と視覚表象の研究:研究報告書』(北原恵研究代表者)、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化研究センター『奈良女子高等師範学校とアジアの留学生』(奈良女子大学アジア・ジェンダー文化研究センター編)、作品社『男性権力の神話——《男性差別》の可視化と撤廃のための学問』(ワレン・ファレル著;久米泰介訳)、高岡尚子ほか執筆者一同『恋をする、とはどういうことか?——ジェンダーから考えることばと文学』(高岡尚子編)、内藤和美『男女共同参画政策の推進に向けた評価に関する調査研究』(研究代表者内藤和美;研究分担者高橋由紀,山谷清志;研究協力者有元祐雅)、石川涼子『あなたが救える命——世界の貧困を終わらせるために今すぐできること』(ピーター・シンガー著;児玉聡,石川涼子訳)、三部倫子『カムアウトする親子——同性愛と家族の社会学』(三部倫子)、ジェンダー研究センター『国際協力専門員——技術と人々を結ぶファシリテータたちの軌跡』(林俊行編)、ジェンダー研究センター『被災地支援者のエンパワーメントに関する調査研究——東日本大震災復興支援事業報告書』(日本女性学習財団編)、ジェンダー研究センター『災害支援に女性の視点を!』(竹信三恵子,赤石千衣子編)、ジェンダー研究センター『国際婦人年(昭和50年)及び「国連婦人の十年」(昭和51年~60年)の記録』、ジェンダー研究センター『日本婦人法律家訪中代表団訪中記録 第11次:1982.7.16-7.28』、ジェンダー研究センター『開発と女性国際セミナー報告書——フィールドからの報告に学ぶ女性の参加を高める協力』(国際協力事業団国際協力総合研修所編)、ジェンダー研究センター『女性のライフサイクルはこう変わる——豊かな老後のために』、ジェンダー研究センター『男女共同参画型社会づくり推進県民会議・シンポジウム——記録集 平成4年度』、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 2009)、館かおる『姉妹たちよ:

女の暦』(女の暦編集室 2010)、館かおる『銀幕の女性監督——calender 1990』、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 2007)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 2008)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 2006)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 2005)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 2004)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 2003)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 1987)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 1988)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 1989)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 1991)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 1992)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 1993)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 1994)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 1995)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 1996)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 1997)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 1998)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 1999)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 2000)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 2001)、館かおる『姉妹たちよ:女の暦』(女の暦編集室 2002)、湯川やよい『アカデミック・ハラスメントの社会学——学生の問題経験と「領域交差」実践』(湯川やよい)、日本女子大学『成瀬記念館 旧成瀬記念室資料』(日本女子大学成瀬記念館編集)、平野恵子『国際協力用語集』(佐藤寛監修)、石井暁子『カルロ・クリヴェッリ——マルケに埋もれた祭壇画の詩人』(石井暁子)

〈外国語文献〉

山崎美和恵 *Twentieth-century women scientists* (Lisa Yount)、KWDI *Policies for supporting the settlements and social activities of women turning to farming and rural areas* (chief researcher Sungjung Park; collaborators Sunju Lee, Myongsuk Jin, Heeyoung Jang)、KWDI *Ways to connect part-time work at public sectors with utilization of replacements for officials on parental leave* (chief researcher Meekyung Moon; collaborators Boktae Kim, Changho Guem, Miyeon Park)、KWDI *Gender budgeting in Korea: the effects of operating national gender budget system and measures for the efficient management of local gender budget system* (Sunjoo Cho)、KWDI *The future of the family and foresight for women and family policies in Korea2* (researcher in charge, Chang, Hye-Kyung; co-researchers, Kim Eun-Ji)、KWDI *Promoting a safe environment for girls and women 4* (Mi Hye Chang et al)、KWDI *Summary of the status of the gender-sensitive analysis of court decisions related to women and*

families, and future legislation 1: women's labour issues (chief researcher Seonyoung Park; co-researchers Boksoon Park et al.), KWDI *Economic growth strategy and jobs for women 3* (project manager Taehong Kim; co-authors Insook Yang, Hojoong Bae), KWDI *Accomplishments of the 30-year efforts for women's integration in social development and an outlook for the future 2* (chief researcher, Wha-Soon Byun; co-researchers, Ae-Kyung Yang, Sun-Ju Lee, Hee-Young Moon), KWDI *KLoWF: Korean longitudinal survey of women & families* (chief researcher Jae-Seon Joo; co-researchers Young-Taek Kim et al.; research assistant Eun-Sue Kang), KWDI *Strengthening gender equality policy infrastructure in the Asia-Pacific region* (Eun Kyung Kim et al.), KWDI *Research on gender equality practices by the general public and obstacles* (Sangsu Ahn et al.), KWDI *Research on the effective establishment of the gender mainstreaming system* (chief researcher: Kim, Kyung-Hee ; co-researchers: Kim, Dool-Soon et al.), KWDI *Analysis of the status of adolescent immigrants from North Korea by gender and support policies for female adolescent among them* (chief researcher Haesook Chung; co-researchers Yoonjeong Choi, Jaeun Choi), KWDI *Structure and characteristics of women's unemployment based on the extended unemployment rate : project title, Study on the recent changes in the structure of women's unemployment* (chief researcher Youngock Kim), KWDI *Ten years of the national basic livelihood security system and working poor women* (Jongsoog Kim, Seon-Mee Shin), KWDI *Adolescent health from gender perspectives and policy issues* (Dongsik Kim, Youngtaek Kim), KWDI *Measures to promote representation through the analysis of nomination process of women in the legislative elections* (researchers Wonhong Kim, Suyeon Lee), KWDI *A study on divorce law reform* (Boksoon Park, Seonyoung Park, Yeobong Lee), KWDI *Research on the blind spot of multicultural family support policy* (Yiseon Kim, Yoosun Chu, Meihua Fang), KWDI *The profile of family caregiving as provided by female older adults in South Korea* (researcher in charge Inhee Choi; co-researchers Youngran Kim, Jihye Yeom, Soohyun Kim), KWDI *Empowering parental capacity of the North Korean female defectors* (Seungah Hong, Soyoung Kim, Jungran Park), KWDI *Panel analysis of 2010-2012 gender budget statements* (principal researcher Youngsook Kim; co-researcher Myoungjae Lee, Hyoseon Kim; assistant Soyoung Cho), KWDI *A study on the distribution of social welfare finances by gender* (Gawon Chung, Sunjoo Cho, Yunyoung Namgung), KWDI *A Study on improving the child-rearing subsidy program for low-income single-parent families* (Eun-Ji Kim, Jung-Im Hwang), 館かおる 告別昨天: 新时期妇女运动回顾 (李小江)、館かおる 走向女人: 新时期妇女研究纪实 (李小江)、館かおる 迟到的潮流: 新时期妇女

创作研究 (乐铄)、館かおる 浮出历史地表: 现代妇女文学研究 (孟悦, 戴锦华)、館かおる 生育与村落文化: 一谷之孙 (李银河)、館かおる 女性权力的崛起 (李银河)、館かおる 中国女性的感情与性 (李银河)、館かおる 中国人的性与婚姻 (李银河)、館かおる 同性恋亚文化 (李银河)、館かおる 虐恋亚文化 (李银河)、館かおる 西方女性主义与中国女作家批评 (西慧玲)、館かおる 西方女性学: 起源、内涵与发展 (刘霓)、館かおる 女性学概论 (魏国英主编)、館かおる 女权辩护 ((英)玛丽·沃斯通克拉夫特著; 王黎译. 妇女的屈从地位 / (英)约翰·斯图尔特·穆勒著; 汪溪译)、館かおる 性無須道德: 性倫理與性批判= *Sexual ethic without morality: essays on sexual ethics and sex critique* (審應斌)、館かおる 動物戀網頁事件簿= *The zoophilia webpage incident* (何春蕤編著)、ジェンダー研究センター *Crossing borders II: migration and development from a gender perspective*、ジェンダー研究センター *Global care chains: toward a rights-based global care regime?* (Amaia Orozco)、ジェンダー研究センター *Women's participation in the market: women retail traders in Phnom Penh, Cambodia* (Kyoko Kusakabe)、ジェンダー研究センター *Thai women construction workers* (Stephen Ogunlana et al.)、ジェンダー研究センター *Violence against women: Perspectives and strategies in India* (Govind Kelkar)、ジェンダー研究センター *Gender concerns in aquaculture in Southeast Asia* (Kyoko Kusakabe, Govind Kelkar eds.)、ジェンダー研究センター “性”, 健康与文化: 世界“性”研究精粹选择 (魏伟翻译)、ジェンダー研究センター “性”, 健康与文化: 世界“性”研究精粹选择 (魏伟翻译)、ジェンダー研究センター *Texts of war: the religio-military nexus in Pakistan and India* (Aneela Zeb Babar)、ジェンダー研究センター *Women, nationalism and state: towards an international feminist perspective* (Jan Jindy Pettman)、ジェンダー研究センター *In search of women's standpoint: towards an epistemology of experiential knowledge* (Dawn H. Currie)、ジェンダー研究センター *Gender relations and housing design: a study in Kathmandu Valley, Nepal* (Girija Shrestha)、ジェンダー研究センター *Women in Laos: weaving tomorrow* (Sumiko Kazeno)、ジェンダー研究センター *The last of the Nuba* (Leni Riefenstahl)、ジェンダー研究センター *Annotated bibliography on women in development in Asia and the Pacific II*、ジェンダー研究センター *SOM Conference on Globalisation, Innovation and Human Resource Development for Competitive Advantage*、ジェンダー研究センター *Women in Asia and the Pacific: high-level Intergovernmental meeting to review regional implementation of the Beijing platform for action 26-29 October 1999: proceedings* (Economic and Social Commission for Asia and the Pacific)、原ひろ子 *Sinistra europea 1987: sindacati e partiti: elezioni programmi*

congressi、原ひろ子 *La questione internazionale* (Margherita Boniver)、
ジェンダー研究センター *La proposta di alternativa per il cambiamento:
il documento preparatorio del XVI Congresso approvato dal CC e dalla
CCC nella sessione del 23/25 novembre 1982*、ジェンダー研究センター
*XIII [i.e. Tredicesimo] Congresso del Partito comunista italiano: atti e
risoluzioni*、ジェンダー研究センター *Il PCI e la sinistra europea*
(Giorgio Napolitano, Gianni Cervetti, Sergio Segre; a cura di Giovanni
Matteoli)、八木江里 *Annual report : 1981-1982 compiled and edited
by Victorya Monkman, Juliette Laplante-L'Hérault= Repport annuel:
1981-1982 (text recueillis et préparés par Victorya Monkman, Juliette
Laplante-L'Hérault)*、八木江里 *Programme : Colloque international
sur la recherche et l'enseignement relatifs aux femmes, Montréal, 26
juillet-4 août, 1982 = [Program] : International Conference on Research
and Teaching Related to Women, Montreal, July 26-August 4, 1982 =
Programa : Co*、八木江里 *Papers to be presented during the International
Conference on Research and Teaching Related to Women: Montréal July
26 - August 4, 1982*、八木江里 *Le bulletin= Newsletter (Université
Concordia, Institut Simone de Beauvoir =Concordia University, Simone de
Beauvoir Institute)*